平成27年度
県民アンケート調査
報告書

＜概要版＞

平成27年11月

奈　良　県

ー 目 次 ー

第１章　調査の実施概要 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 1

１．調査の目的＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1
２．調査項目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1
３．調査の設計＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1
４．調査票の配布・回収の状況＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1

第２章　調査結果の分析 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 3

１．県民の生活全般について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿3
1-1　現在の暮らし向きの実感＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 3
1-2　1年前と比較した暮らし向きの実感＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 4
1-3　1年前と比較して暮らし向きの実感が「苦しくなった」と答えた理由＿＿＿＿＿ 5
1-4　日頃の生活での悩みや不安の有無＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 6
1-5　日頃の生活での悩みや不安の内容＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 7
1-6　奈良県の住みよさの評価＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 8
1-7　将来の奈良県での定住意向＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 9
1-8　将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由＿＿＿＿ 10

２．県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿11
2-1　県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 11

３．県民の生活に関する意識やニーズについて＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿19
3-1　観光振興について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 19
3-2　雇用対策の推進について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 20
3-3　女性支援の充実について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 23
3-4　健康づくりの推進について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 24
3-5　スポーツ振興について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 26
3-6　文化振興について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 28
3-7　安全・安心の確保について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 30
3-8　景観・環境の保全と創造について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 33
3-9　エネルギー政策の推進について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 36

４．回答者に関すること＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿39

第1章　調査の実施概要

1. 調査の目的

県民にとって身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「雇用対策の促進」や「安全・安心の確保」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を５段階で問う項目、「雇用対策の促進」や「安心・安全の確保」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

◇調 査 地 域　奈良県全域
◇調査標本数　5,000 人
◇調 査 方 法　郵送配布・郵送回収
◇調 査 対 象　県内在住の満 20 歳以上の男女・個人
◇調査抽出表　層化二段無作為抽出法
◇調 査 時 期　平成 27 年８月 28 日(金)～９月 18 日(金)

4. 調査票の配布･回収の状況

◇配布件数　5,000 件
◇有効回答数（率）　2,721 件（54.4%）

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29 歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	143	5.3%
夫婦	20～64 歳で、夫婦のみの世帯の回答者	232	8.5%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	169	6.2%
教育期前期	小･中学校、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	372	13.7%
教育期後期	専門学校生･短大生･予備校生･大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	200	7.4%
単身高齢者	65 歳以上の単身世帯の回答者	147	5.4%
高齢者夫婦	65 歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	437	16.1%
非該当又は無回答		1,196	44.0%
合　計※注		2,896	－
有効回答数		2,721	100.0%

（注）ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。
２人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,721 件)と一致しない。

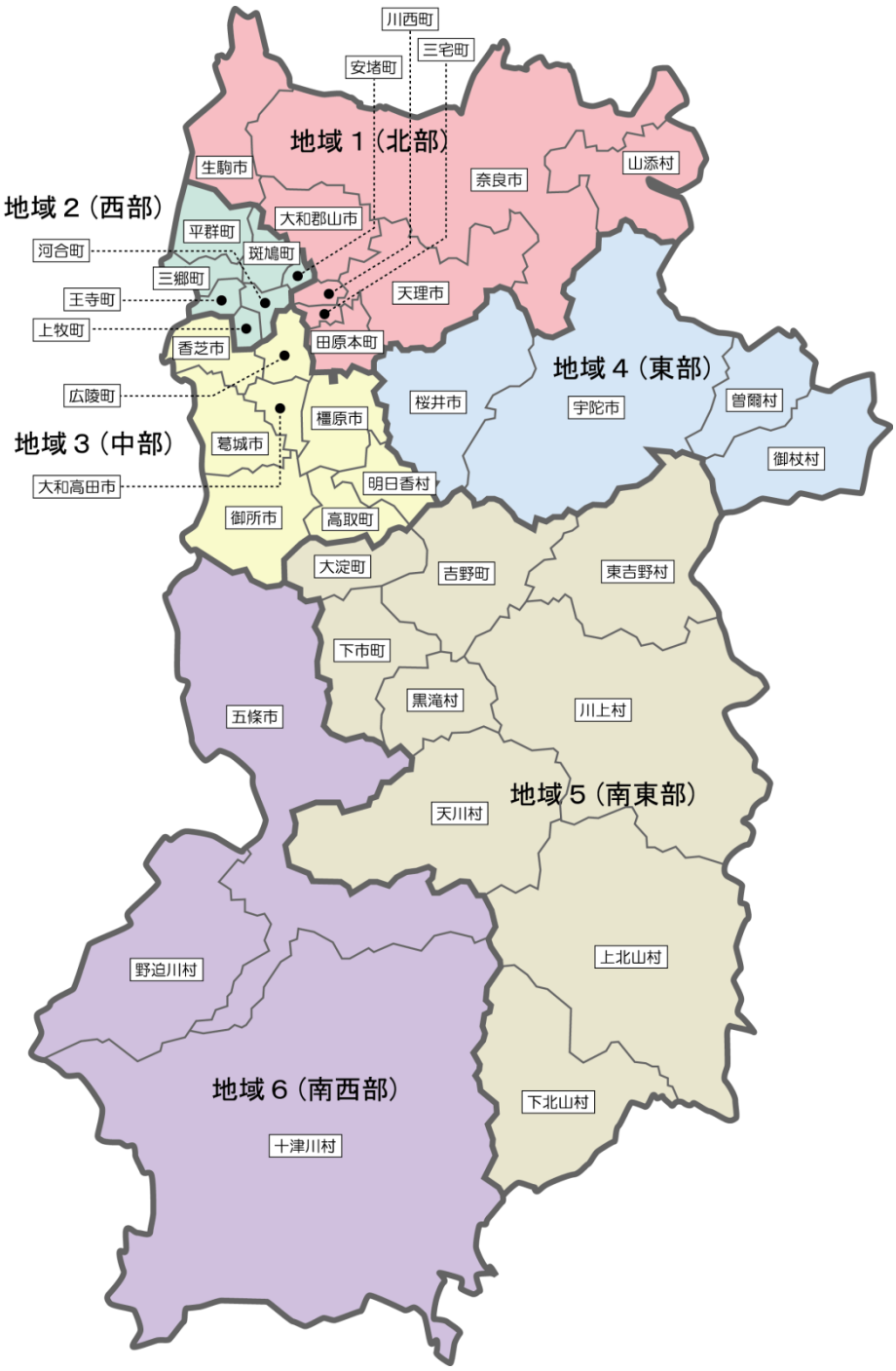
■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,484	54.5%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,166	42.9%
非該当又は無回答		71	2.6%
合　計		2,721	100.0%

■奈良での就労区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
奈良県内で働いている人	就労場所が奈良県内の回答者	1,099	40.4%
奈良県外で働いている人	就労場所が奈良県外の回答者	355	13.0%
非該当又は無回答		1,267	46.6%
合　計		2,721	100.0%

地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1（北部）	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,287	47.3%
地域2（西部）	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	243	8.9%
地域3（中部）	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	693	25.5%
地域4（東部）	桜井市・宇陀市・曽爾村・御杖村	219	8.0%
地域5（南東部）	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	196	7.2%
地域6（南西部）	五條市・野迫川村・十津川村	83	3.1%
合　計		2,721	100.0%

第2章　調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

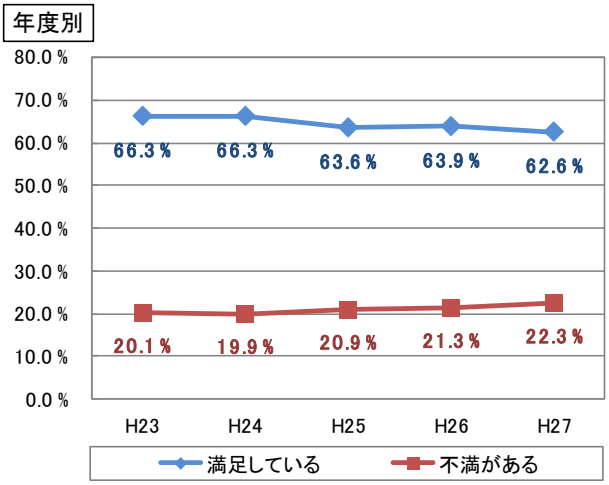
1－1　現在の暮らし向きの実感（問１）

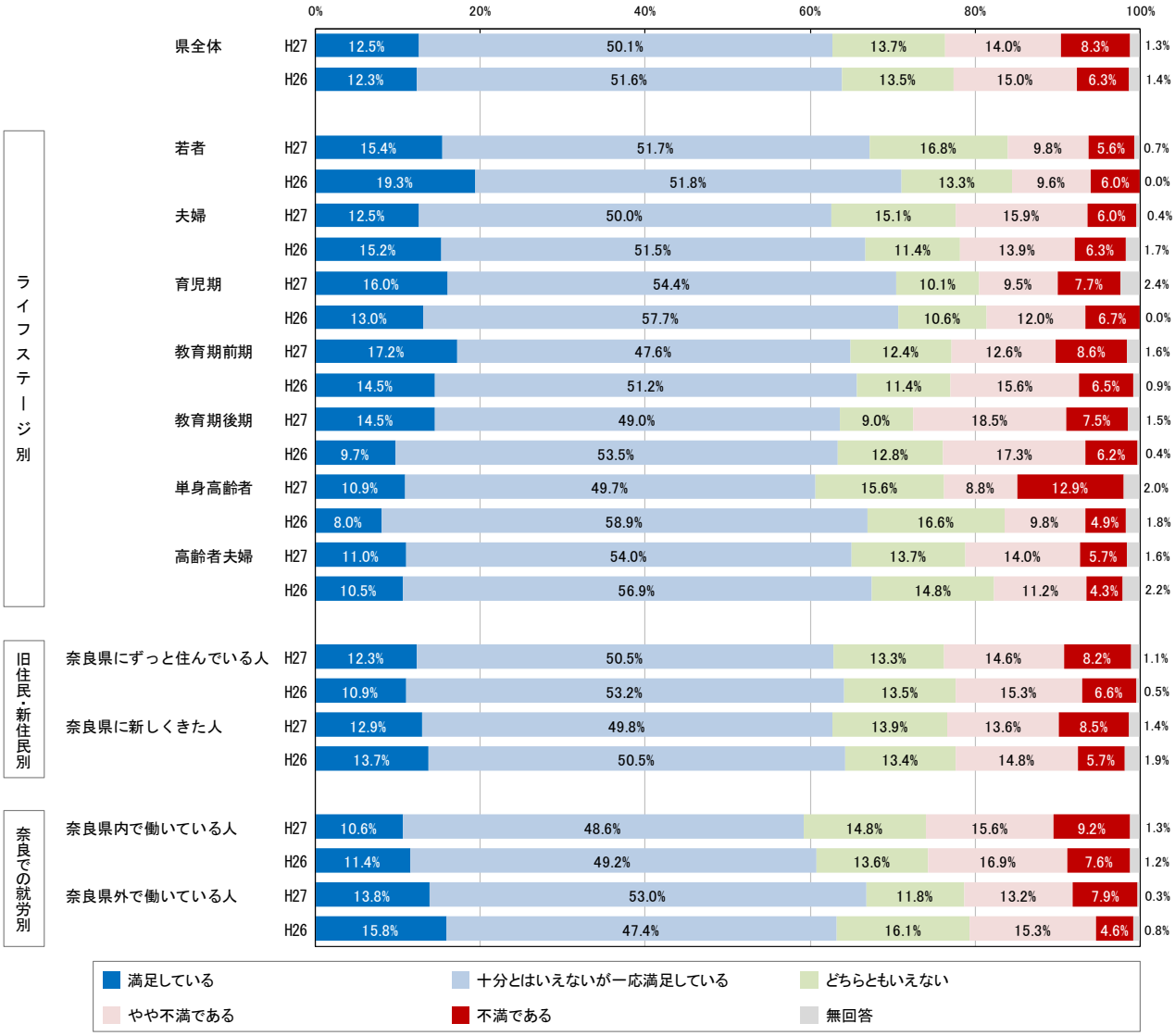
■「満足」(「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」)」している人は、平成 26 年度と比較すると、1.3 ポイント減少しています。一方で、「不満」(「やや不満がある」+「不満である」)を抱いている人は 1.0 ポイント増加しています。

■ライフステージ別にみると、「満足」している人が最も多いのは『育児期』(70.4%)、次いで『若者』(67.1%)となっています。一方で、「不満」を抱いている人が最も多いのは『教育期後期』(26.0%)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「満足」している人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(62.8%)が『奈良県に新しくきた人』(62.7%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「満足」している人は、『奈良県外で働いている人』(66.8%)が『奈良県内で働いている人』(59.1%)と比べ多くなっています。





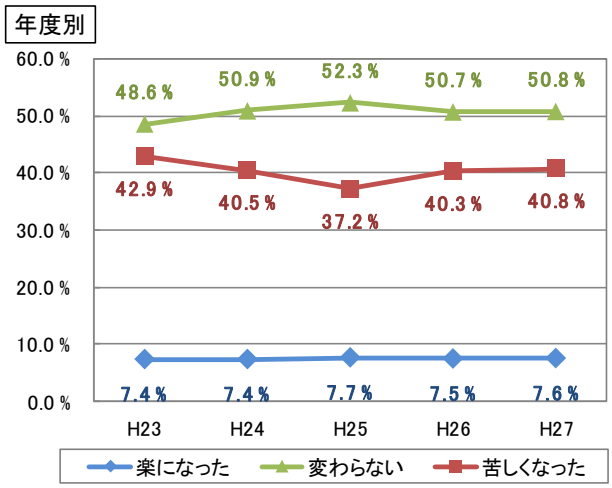
1－2　１年前と比較した暮らし向きの実感（問２）

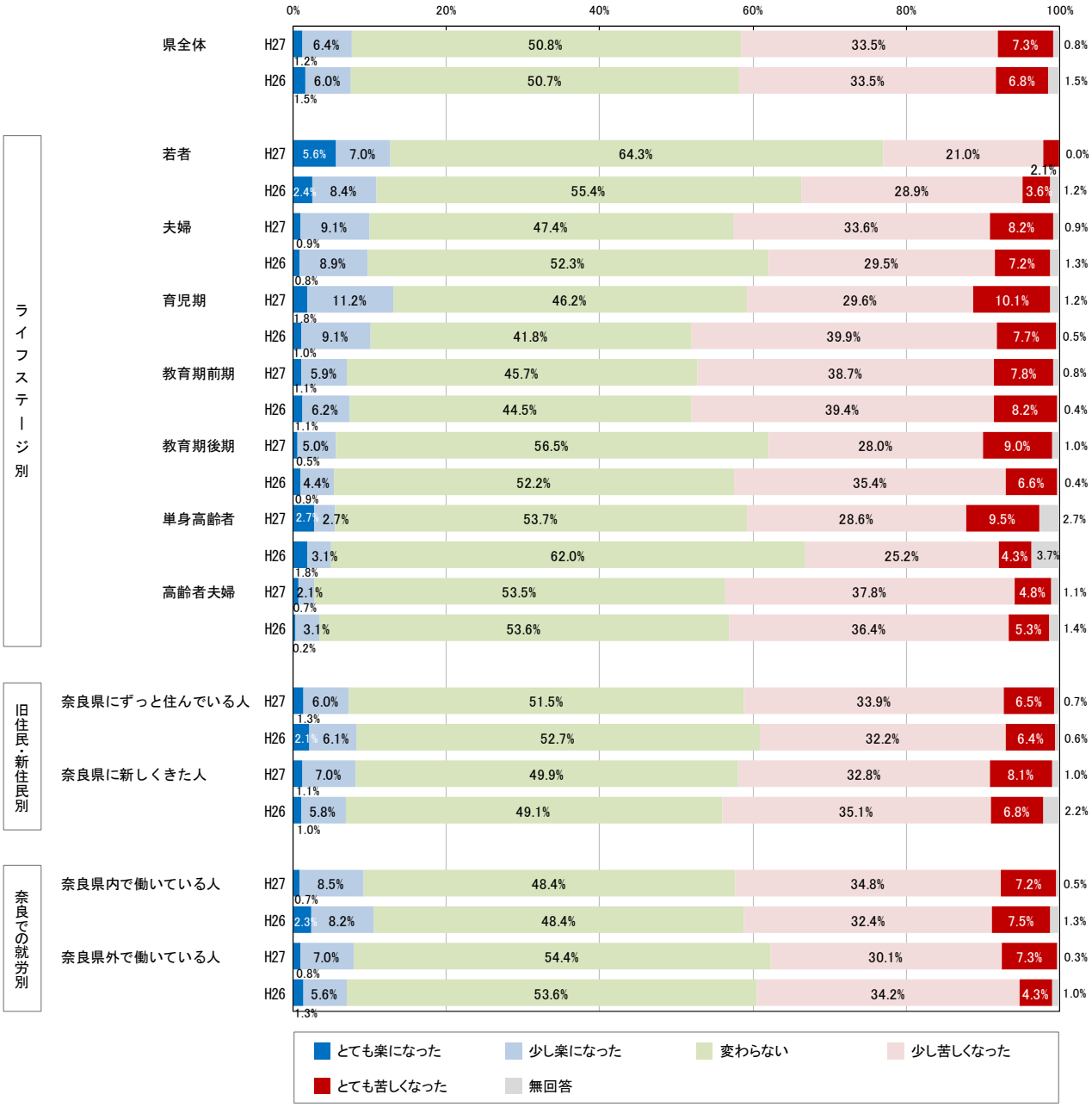
■「変わらない」と感じている人は平成 26 年度から 0.1 ポイント増加しています。また、「楽になった」(「とても楽になった」+「少し楽になった」)と感じている人は平成 23 年度からほぼ横ばいとなっています。一方で、「苦しくなった」(「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」)と感じている人は平成 25 年度以降、増加傾向にあります。

■ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期前期』(46.5％)が最も多く、次いで『高齢者夫婦』(42.6％)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県に新しくきた人』(40.9％)が『奈良県にずっと住んでいる人』(40.4％)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』(41.9％)が『奈良県外で働いている人』(37.5％)と比べ多くなっています。





１−３　１年前と比較して暮らし向きの実感が「苦しくなった」と答えた理由
（問３　５つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

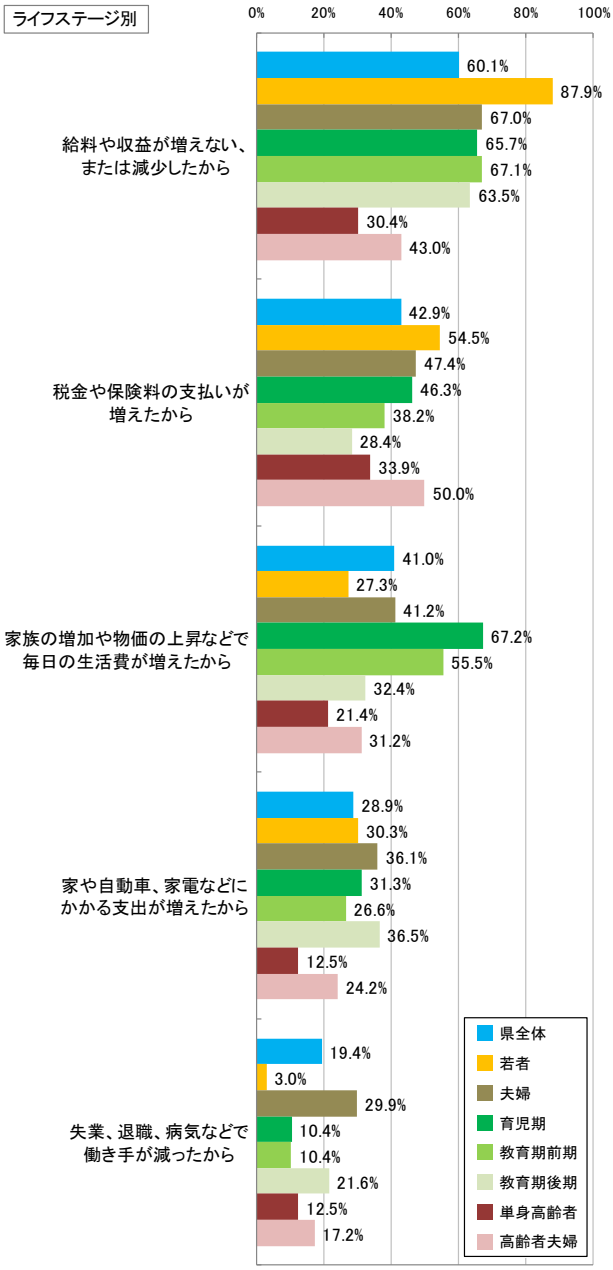
■1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても苦しくなった」または「少し苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(60.1%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(42.9%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(41.0%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(28.9%)、「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」(19.4%)が多くなっています。

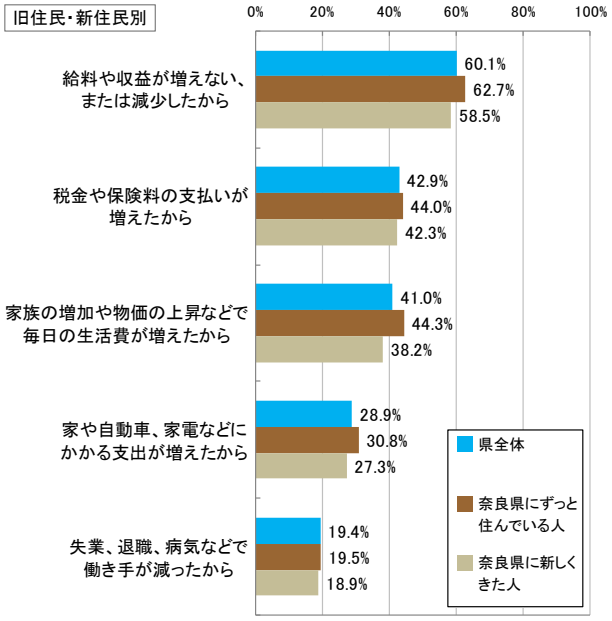
■「給料や収益が増えない、または減少したから」、「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

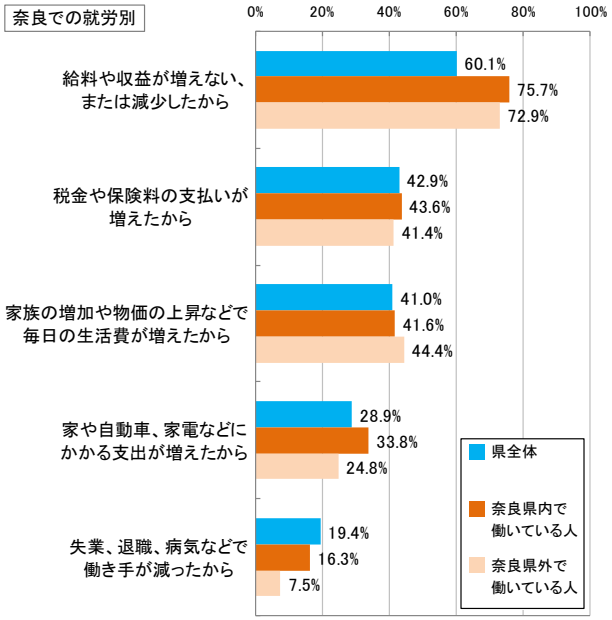
■「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

■「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「失業、退職、病気などで働き手が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。







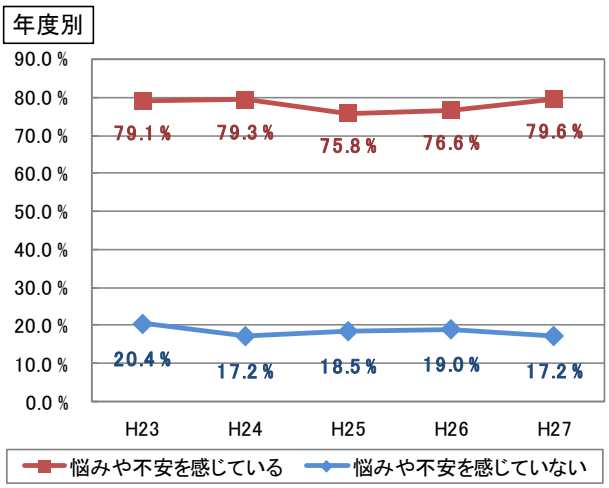
1－4　日頃の生活での悩みや不安の有無（問４）

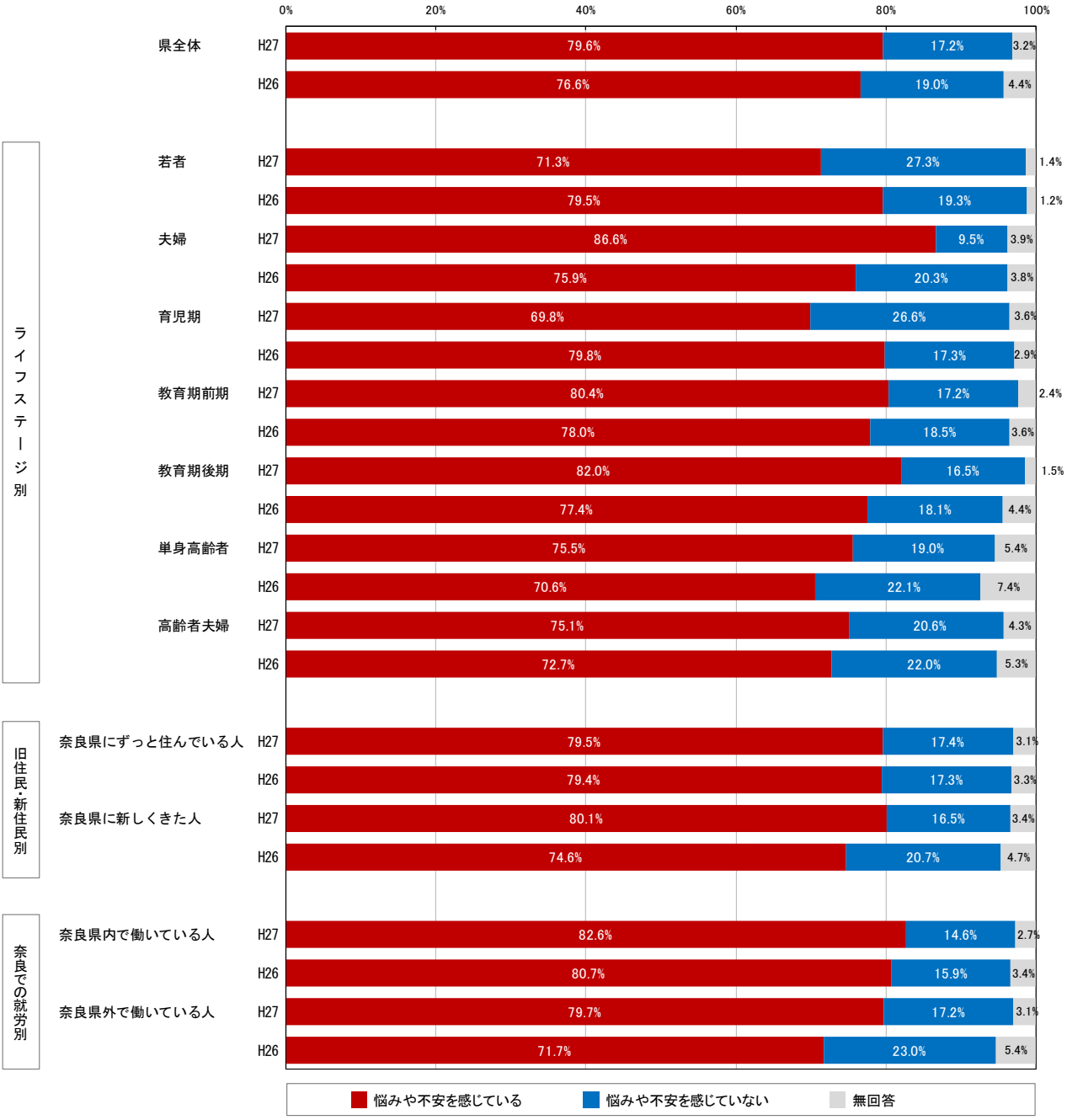
■平成 23 年度から継続して 75%以上の人が日頃の生活に対し「悩みや不安を感じている」と答えています。平成 26 年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 3.0 ポイント増加しています。一方で、「悩みや不安を感じていない人」は 1.8 ポイント減少しています。

■ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『夫婦』(86.6%)で他のライフステージと比べ多くなっています。

■旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県に新しくきた人』(80.1%)が『奈良県にずっと住んでいる人』(79.5%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県内で働いている人』(82.6%)が『奈良県外で働いている人』(79.7%)と比べ多くなっています。





1－5　日頃の生活での悩みや不安の内容（問５　５つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(63.9%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(62.4%)、「家族の健康について」(54.4%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(52.4%)、「現在の収入や資産について」(40.3%)が多くなっています。

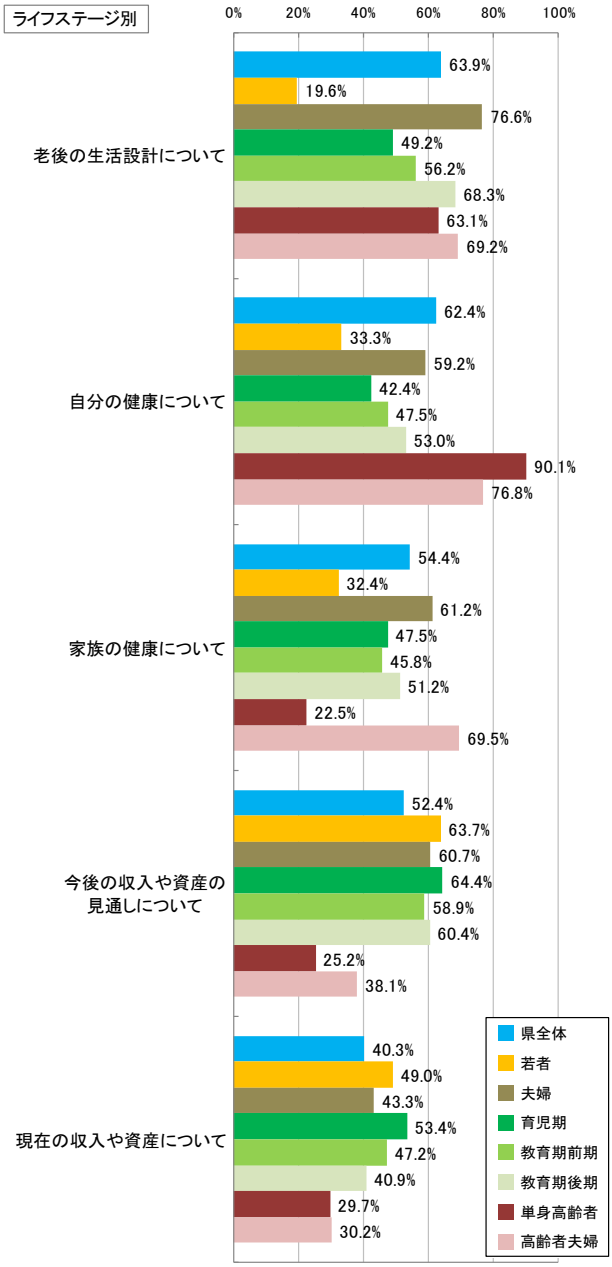
■「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

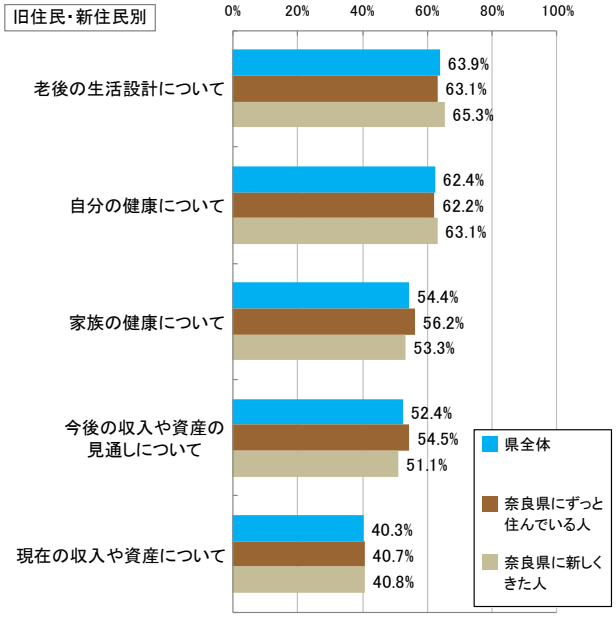
■「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

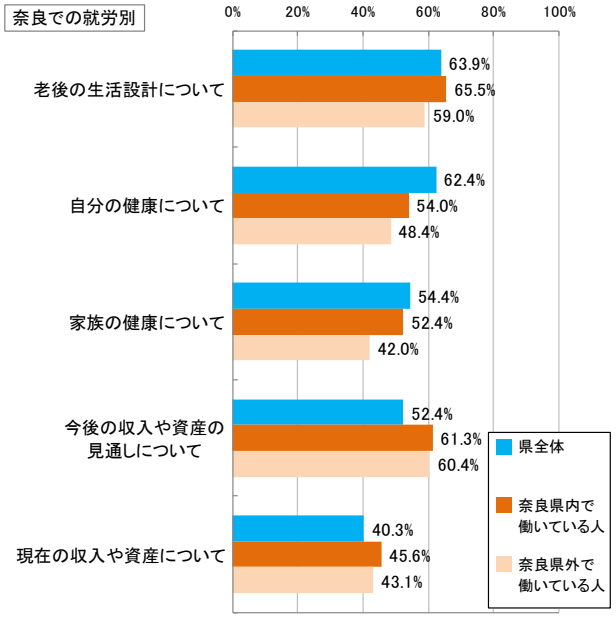
■「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています







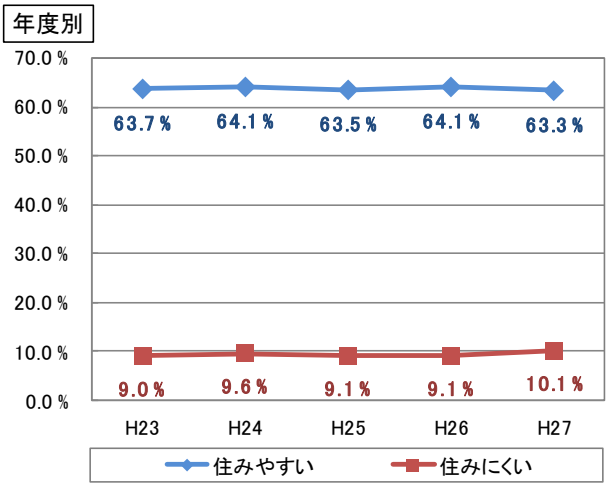
1－6　奈良県の住みやすさの評価（問６）

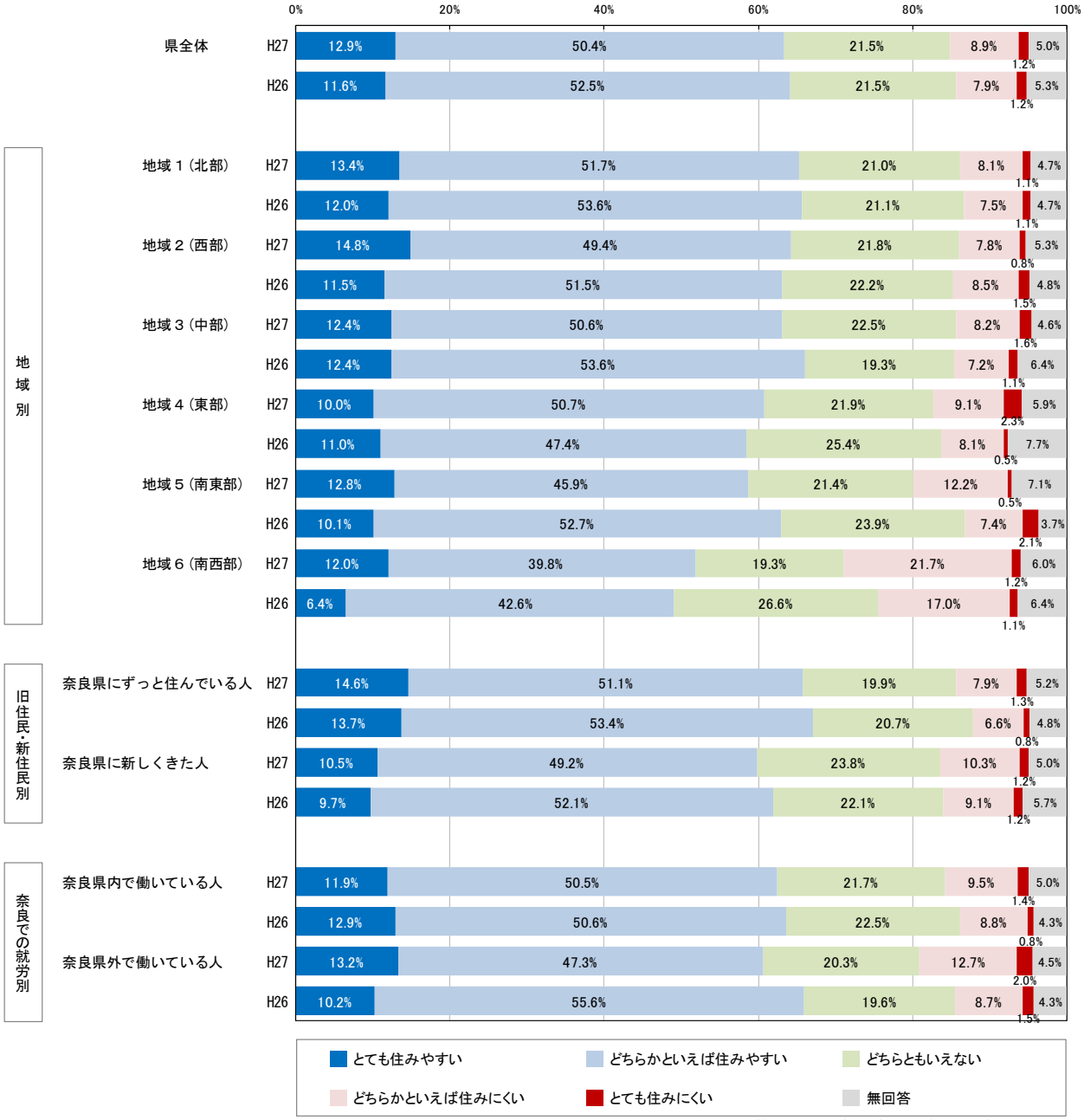
■「住みやすい」(「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」)と感じている人は、平成23年度から概ね横ばい傾向にあります。平成26年度と比較すると、「住みやすい」と感じている人は 0.8 ポイント減少しています。一方で、「住みにくい」(「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」)と感じている人は1.0ポイント増加しています。

■地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域1(北部)』(65.2%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(64.2%)、『地域3(中部)』(63.1%)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(65.7%)が『奈良県に新しくきた人』(59.8%)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県内で働いている人』(62.4%)が『奈良県外で働いている人』(60.6%)と比べ多くなっています。





※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

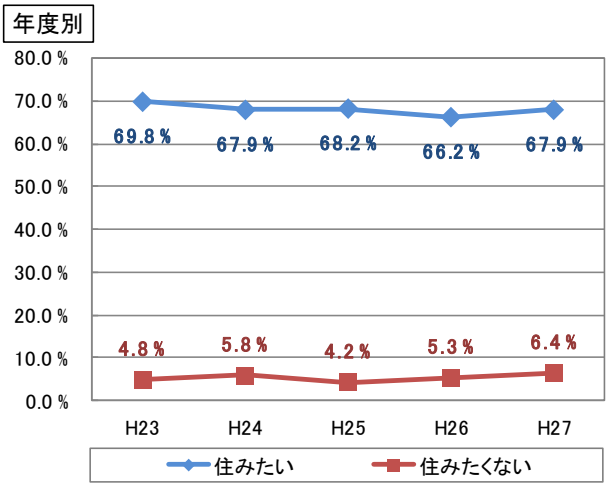
1－7　将来の奈良県での定住意向（問７）

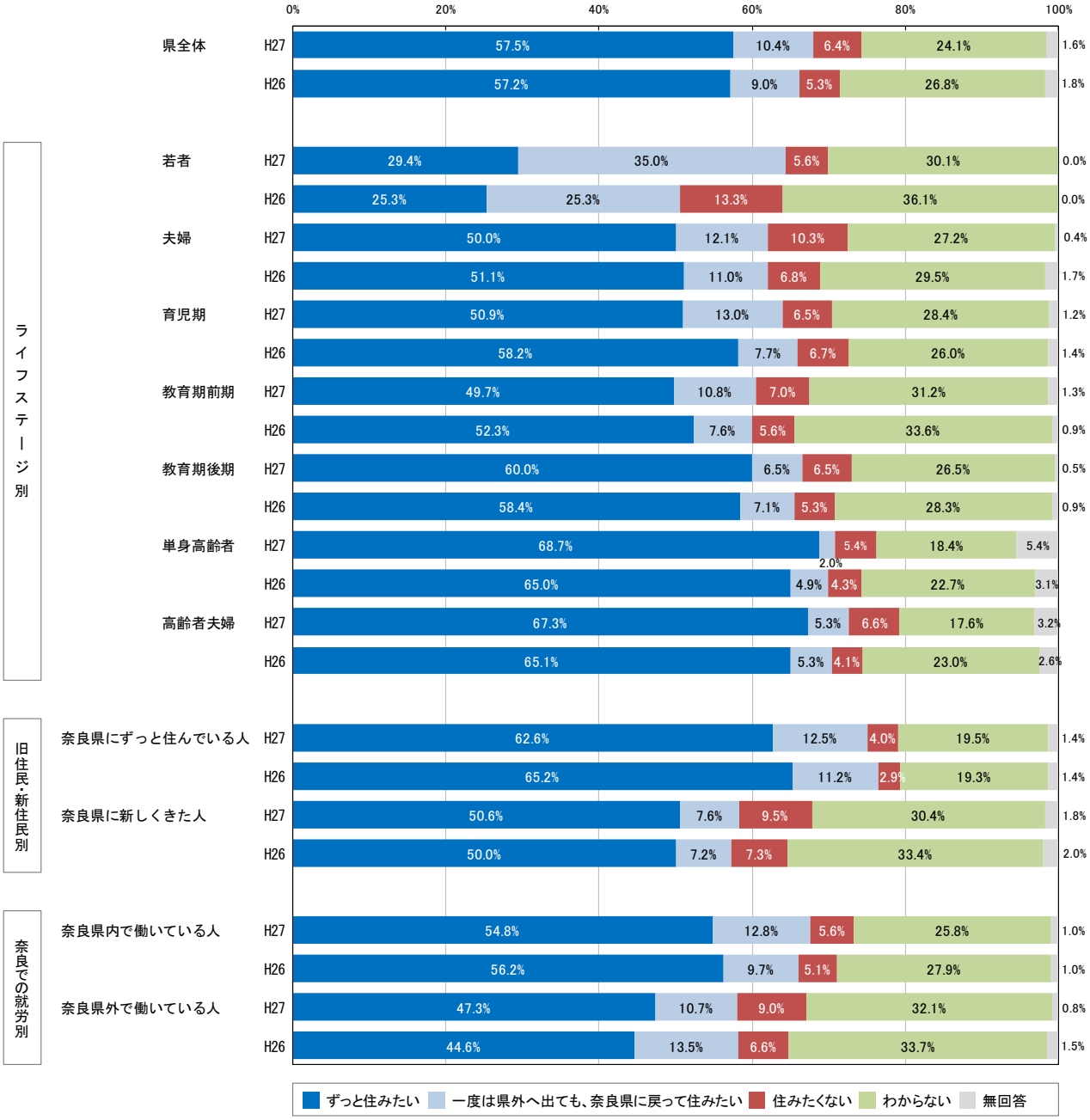
■奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」）と考えている人は、平成 23 年度から 68％前後で推移しています。平成 26 年度と比較すると 1.7 ポイント増加しています。

■ライフステージ別にみると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『単身高齢者』(68.7％)、最も少ないのは『若者』(29.4％)となっています。一方で、「一度は県外に出ても、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』(35.0％)となっています。

■旧住民・新住民別にみると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(75.1％)が『奈良県に新しくきた人』(58.2％)と比べ多くなっています。

■奈良での就労別にみると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県内で働いている人』(67.6％)が『奈良県外で働いている人』(58.0％)と比べ多くなっています。





１－８　将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由
（問８　５つ以内で複数回答　県全体についての「その他」を除く上位５項目を掲載）

■将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買い物など日常の生活環境を整っていないから」(41.5%)が最も多く、次いで「医療が充実していないから」(37.8%)、「通勤・通学に不便だから」(37.3%)、「福祉サービスが充実していないから」(30.3%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」(19.2%)が多くなっています。

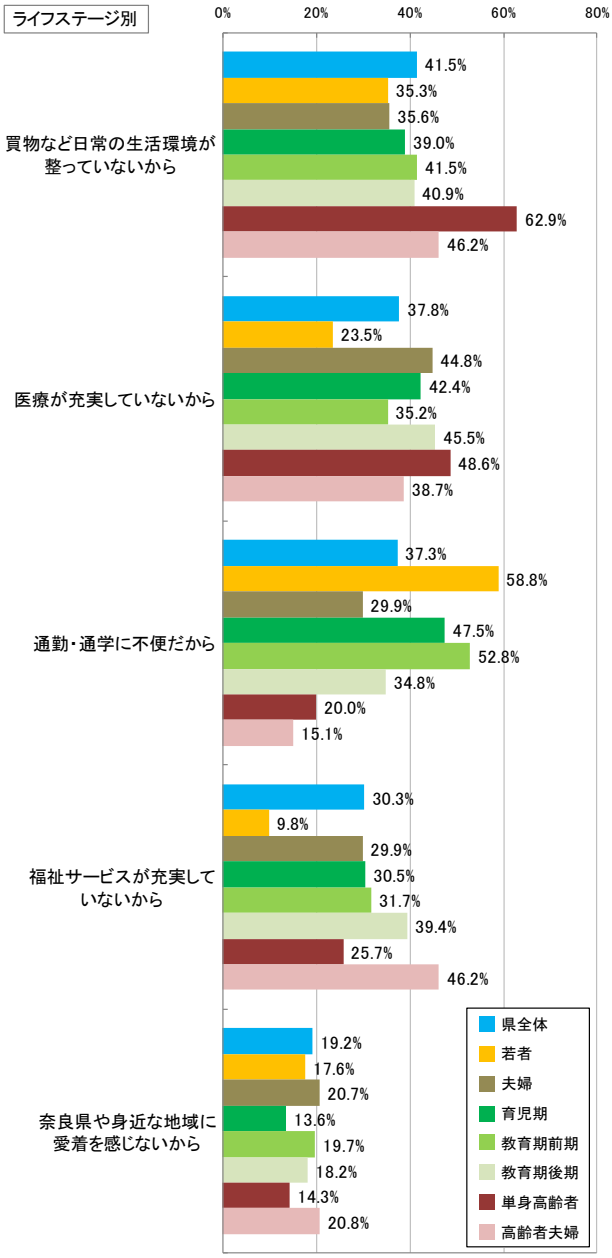
■「買い物など日常の生活環境が整っていないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

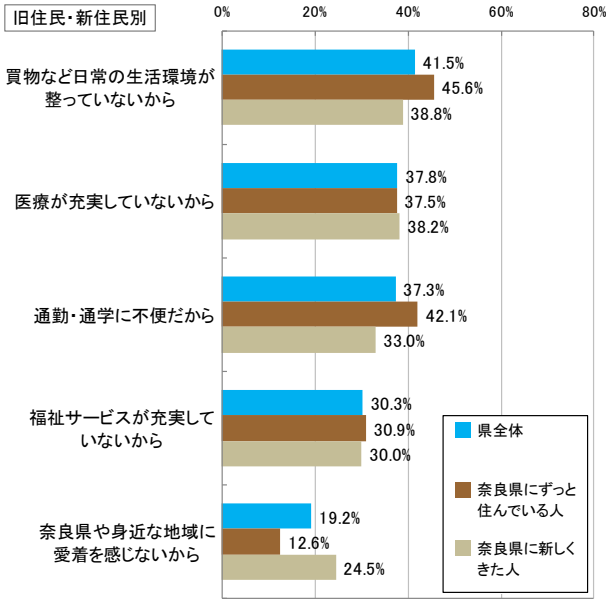
■「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

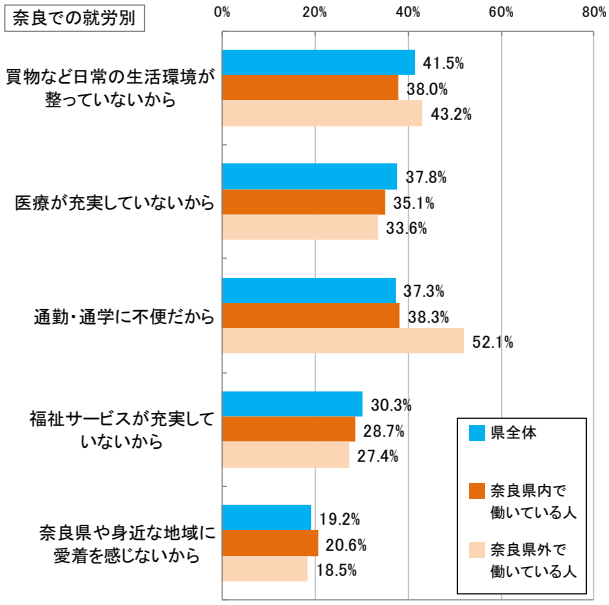
■「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

■「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

■「奈良県や身近な地域に愛着を感じないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。







2. 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について

2－1　県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度（問９　５段階ポイント評価）

（１）県全体

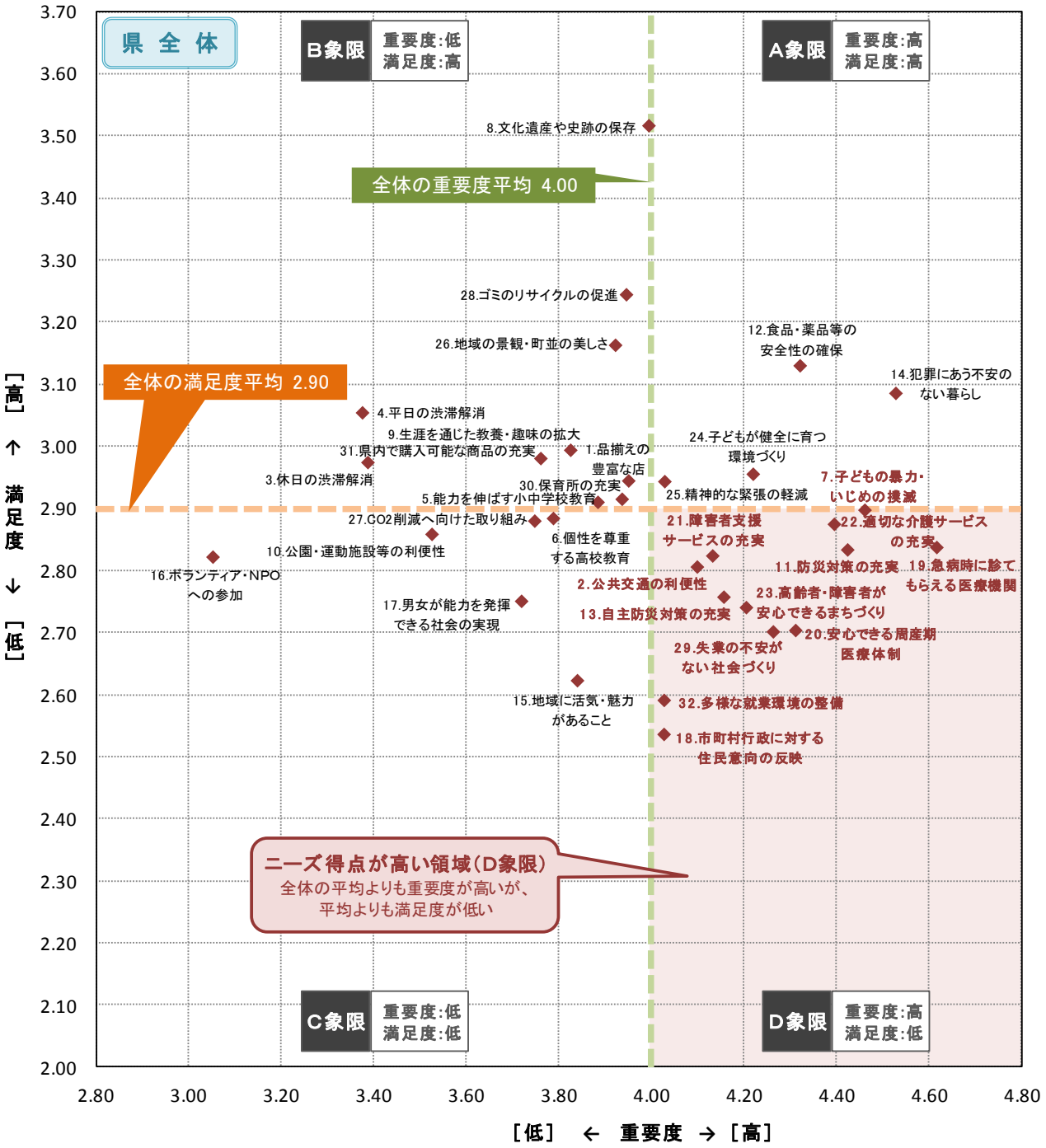
■身近な生活に関する 32 項目それぞれの重要度と満足度を5点（高い）～1点（低い）の5段階で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。（次ページ参照）

■ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。（「ニーズ得点＝＜重要度＞×＜6－満足度＞」により算出。）

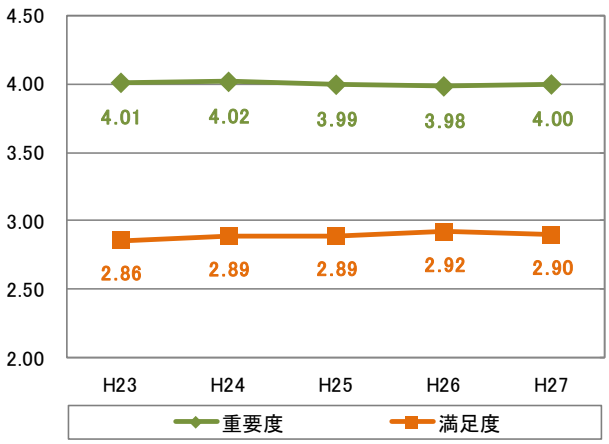
■「重要度が高く、満足度が低い」図の右下の領域（D象限）に属する「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「20. 安心できる周産期医療体制」、「29. 失業の不安がない社会づくり」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「28. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「32. 多様な就業環境の整備」となっています。



■県民の身近な生活に関する 32 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 23 年度からほぼ横ばい傾向となっています。また、満足度の平均値は昨年度までは上昇傾向にありましたが、今年度はやや低下しています。



【身近な生活に関する 32 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（５年間の比較】

項目番号	項　目	重要度					満足度					ニーズ得点					重要度と満足度の関係				
		H27	H26	H25	H24	H23	H27	H26	H25	H24	H23	H27	H26	H25	H24	H23	H27	H26	H25	H24	H23
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.95	3.92	3.90	3.89	3.88	2.94	3.07	3.09	3.03	3.00	12.08	11.47	11.33	11.55	11.62	B	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.10	4.07	4.08	4.08	4.06	2.81	3.02	3.01	3.02	2.92	13.10	12.12	12.20	12.15	12.51	D	A	A	A	A
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.39	3.42	3.40	3.39	3.34	2.97	2.98	2.93	3.02	2.93	10.25	10.33	10.44	10.10	10.25	B	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.38	3.41	3.39	3.36	3.35	3.05	3.09	3.06	3.13	3.07	9.95	9.92	9.95	9.63	9.83	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.89	3.95	3.98	4.00	3.96	2.91	2.93	2.89	2.88	2.90	12.01	12.10	12.39	12.48	12.27	B	B	C	C	B
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.79	3.82	3.83	3.84	3.83	2.88	2.93	2.89	2.86	2.89	11.81	11.75	11.94	12.06	11.89	C	B	C	C	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.46	4.43	4.46	4.44	4.43	2.90	2.95	2.90	2.90	2.94	13.85	13.51	13.83	13.73	13.56	D	A	A	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	4.00	3.96	3.97	4.00	3.98	3.52	3.53	3.53	3.57	3.55	9.92	9.78	9.81	9.73	9.73	B	B	B	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.83	3.81	3.82	3.83	3.82	2.99	3.03	2.99	3.01	3.00	11.50	11.34	11.47	11.45	11.48	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.53	3.55	3.55	3.55	3.53	2.86	2.90	2.93	2.86	2.84	11.08	10.98	10.91	11.14	11.16	C	C	B	C	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.43	4.39	4.39	4.46	4.46	2.83	2.77	2.72	2.67	2.65	14.01	14.18	14.39	14.83	14.93	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.32	4.27	4.31	4.31	4.30	3.13	3.11	3.09	3.20	3.25	12.41	12.37	12.57	12.06	11.82	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.16	4.16	4.19	4.21	4.23	2.76	2.71	2.65	2.70	2.65	13.48	13.69	14.05	13.89	14.17	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.53	4.50	4.53	4.57	4.53	3.09	3.13	3.08	3.05	3.05	13.20	12.91	13.25	13.49	13.34	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.84	3.84	3.82	3.89	3.87	2.62	2.70	2.68	2.63	2.62	12.97	12.67	12.69	13.12	13.08	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.05	3.06	3.08	3.08	3.09	2.82	2.85	2.83	2.82	2.78	9.70	9.64	9.78	9.81	9.95	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.72	3.70	3.73	3.71	3.69	2.75	2.79	2.76	2.76	2.77	12.09	11.87	12.10	12.00	11.90	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.03	4.00	4.03	4.06	4.08	2.54	2.57	2.53	2.53	2.45	13.96	13.73	13.98	14.10	14.48	D	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.62	4.57	4.63	4.64	4.61	2.84	2.80	2.73	2.75	2.67	14.61	14.61	15.15	15.08	15.34	D	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.31	4.29	4.32	4.37	4.38	2.70	2.72	2.65	2.61	2.54	14.22	14.09	14.47	14.82	15.13	D	D	D	D	D
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.13	4.10	4.14	4.14	4.13	2.82	2.84	2.80	2.78	2.77	13.13	12.96	13.26	13.32	13.34	D	D	D	D	D
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.40	4.34	4.37	4.37	4.35	2.87	2.89	2.89	2.88	2.84	13.74	13.51	13.60	13.63	13.74	D	D	D	D	D
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.21	4.18	4.18	4.18	4.18	2.74	2.77	2.73	2.74	2.67	13.71	13.50	13.64	13.62	13.89	D	D	D	D	D
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.22	4.19	4.19	4.24	4.20	2.95	2.96	2.94	2.95	2.92	12.85	12.75	12.82	12.94	12.95	A	A	A	A	A
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.03	4.01	3.98	4.02	4.02	2.94	2.96	2.95	2.91	2.89	12.32	12.19	12.16	12.39	12.52	A	A	B	B	A
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.92	3.92	3.92	3.93	3.95	3.16	3.17	3.17	3.18	3.13	11.13	11.09	11.11	11.09	11.35	B	B	B	B	B
27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.75	3.74	3.76	3.77	3.82	2.88	2.88	2.85	2.83	2.78	11.70	11.69	11.86	11.97	12.29	C	C	C	C	C
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.95	3.90	3.92	3.92	3.93	3.24	3.20	3.19	3.13	3.08	10.88	10.90	11.03	11.26	11.49	B	B	B	B	B
29	失業の不安がなく働けること	4.26	4.24	4.28	4.36	4.34	2.70	2.68	2.61	2.57	2.53	14.07	14.07	14.52	14.97	15.05	D	D	D	D	D
30	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.94	3.91	3.94	－	－	2.91	2.89	2.88	－	－	12.15	12.17	12.27	－	－	B	C	C	－	－
31	県内で買いたいものが販売されていること	3.76	3.77	3.75	3.80	3.84	2.98	2.98	2.99	2.97	2.98	11.36	11.40	11.28	11.52	11.58	B	B	B	B	B
32	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.03	4.03	4.00	4.08	4.10	2.59	2.59	2.54	2.52	2.47	13.74	13.76	13.81	14.23	14.49	D	D	D	D	D

（注）「重要度と満足度の関係」の各年度のＡ～Ｄの記号の対応については、前ページのＡ～Ｄの象限に対応している。
網掛けした項目は満足度が32項目の平均値を下回るもの（Ｃ象限・Ｄ象限）であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの（Ｄ象限）、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目（ニーズ得点が高い項目）である。
なお、「－」は前年度以前において未調査のため、数値がないことを示している。

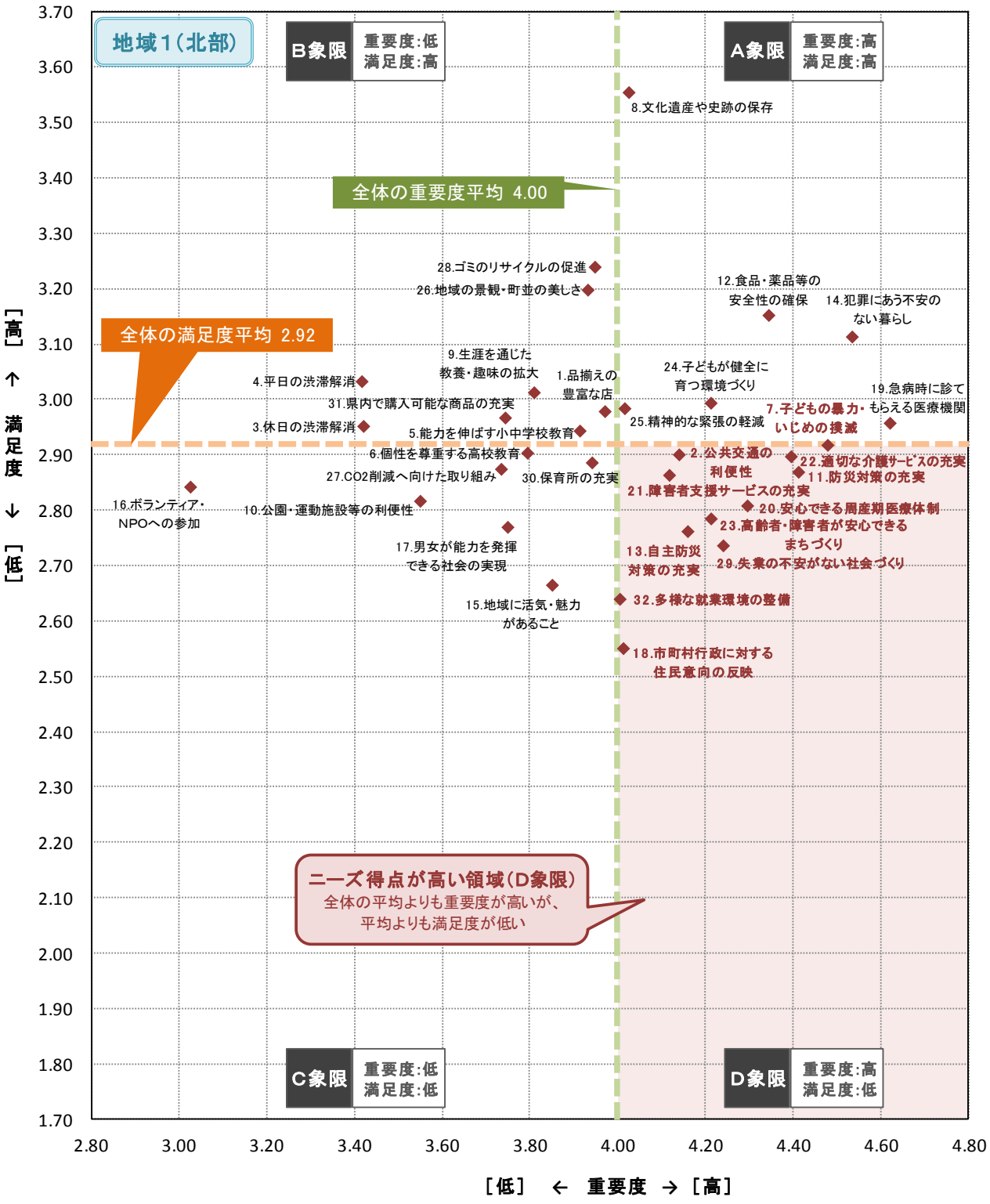
（２）地域別

①地域１（北部）

■『地域1（北部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「29. 失業の不安がない社会づくり」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「28. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「32. 多様な就業環境の整備」となっています。

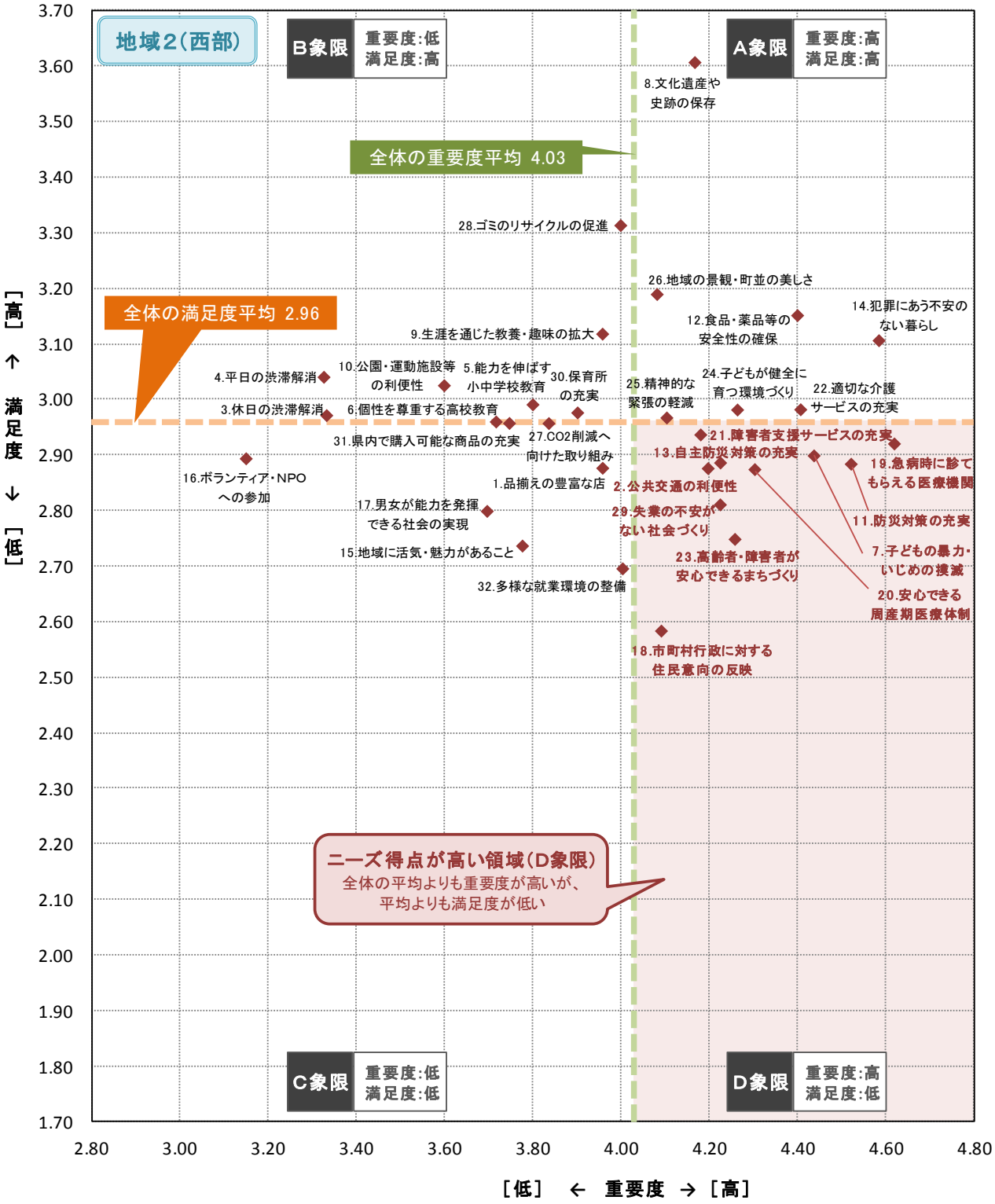


②地域２（西部）

■『地域2（西部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「28. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「32. 多様な就業環境の整備」となっています。

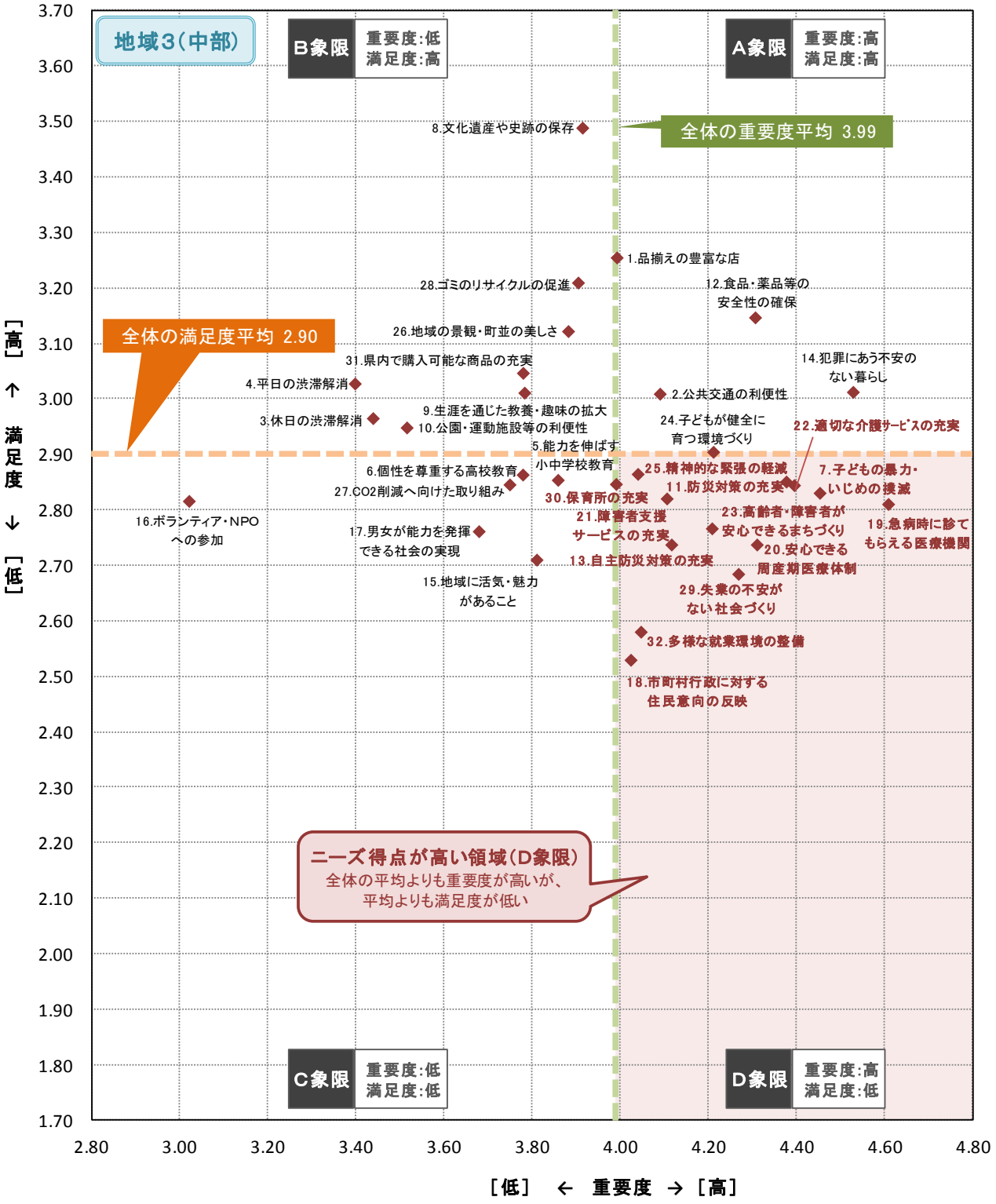


③地域３（中部）

■『地域3（中部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「29. 失業の不安がない社会づくり」、「7. 子どもの暴力・いじめの撲滅」などでニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「32. 多様な就業環境の整備」となっています。

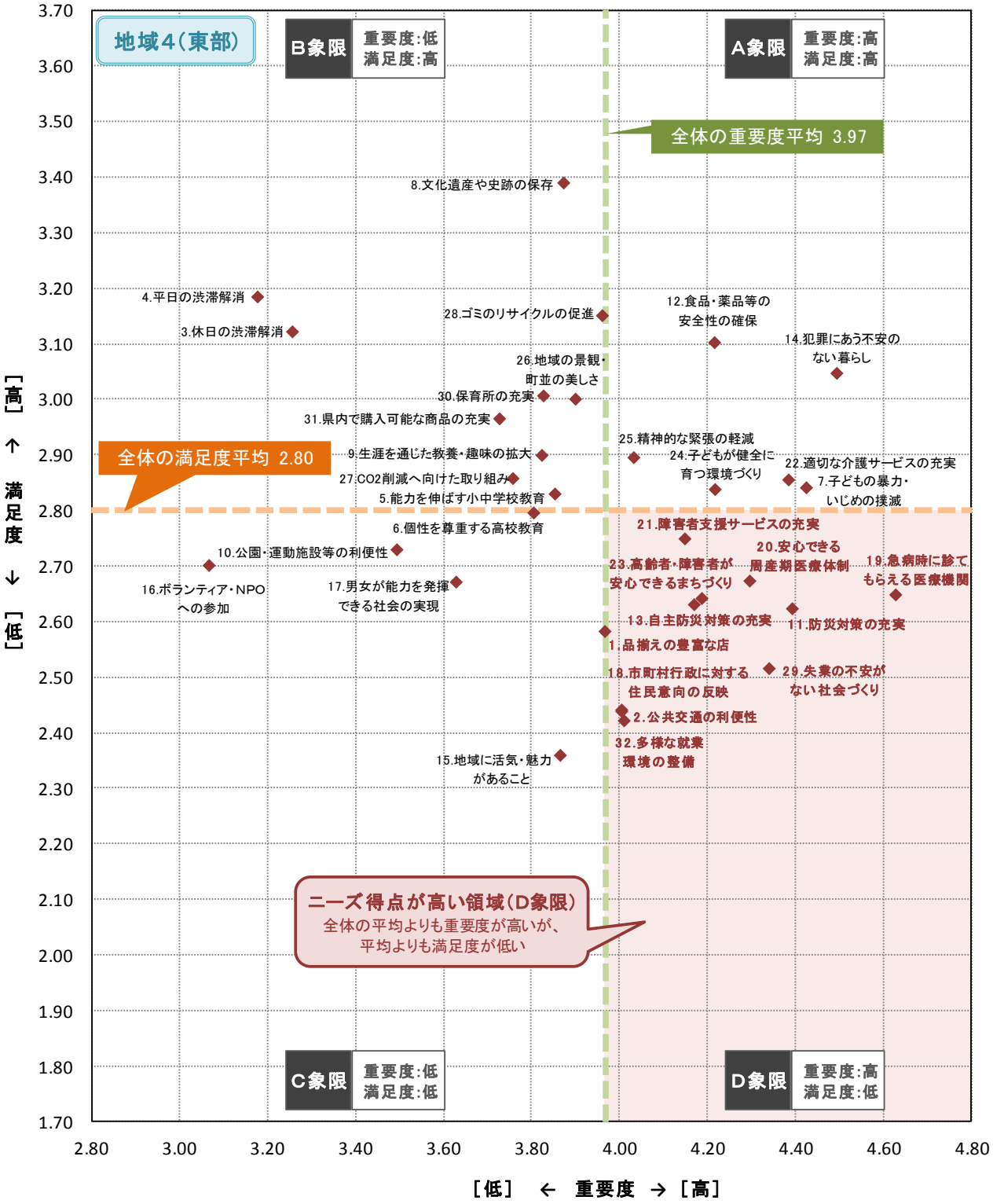


④地域４（東部）

■『地域4（東部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「29. 失業の不安がない社会づくり」、「11. 防災対策の充実」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「4. 休日の渋滞解消」となっています。一方で、「15. 地域に活気・魅力があること」が最も低く、次いで「2. 公共交通の利便性」となっています。

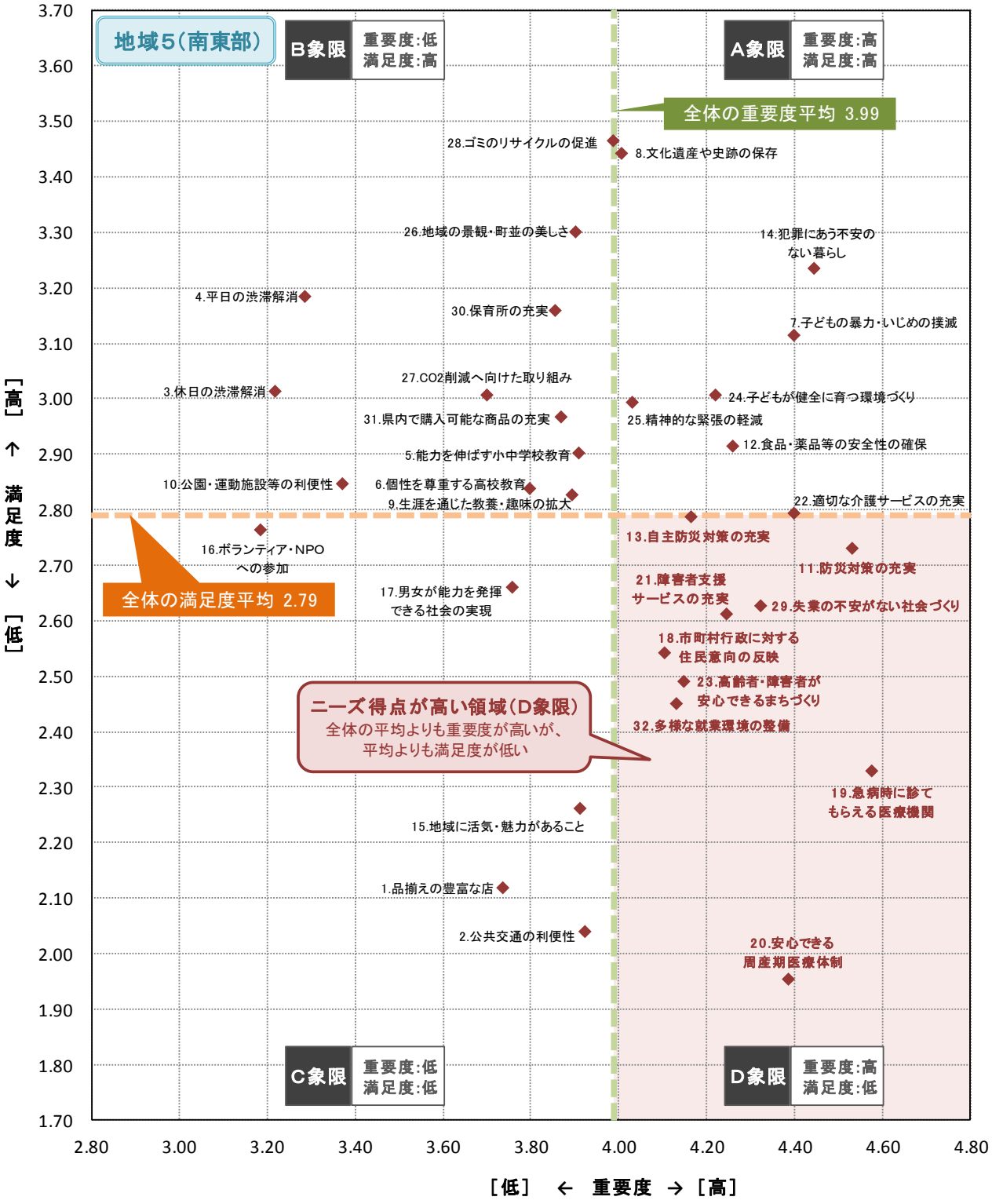


⑤地域５（南東部）

■『地域5（南東部）』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「2. 公共交通の利便性」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「28. ゴミのリサイクルの促進」が最も高く、次いで「8. 文化遺産や史跡の保存」となっています。一方で、「20. 安心できる周産期医療体制」が最も低く、次いで「2. 公共交通の利便性」となっています。

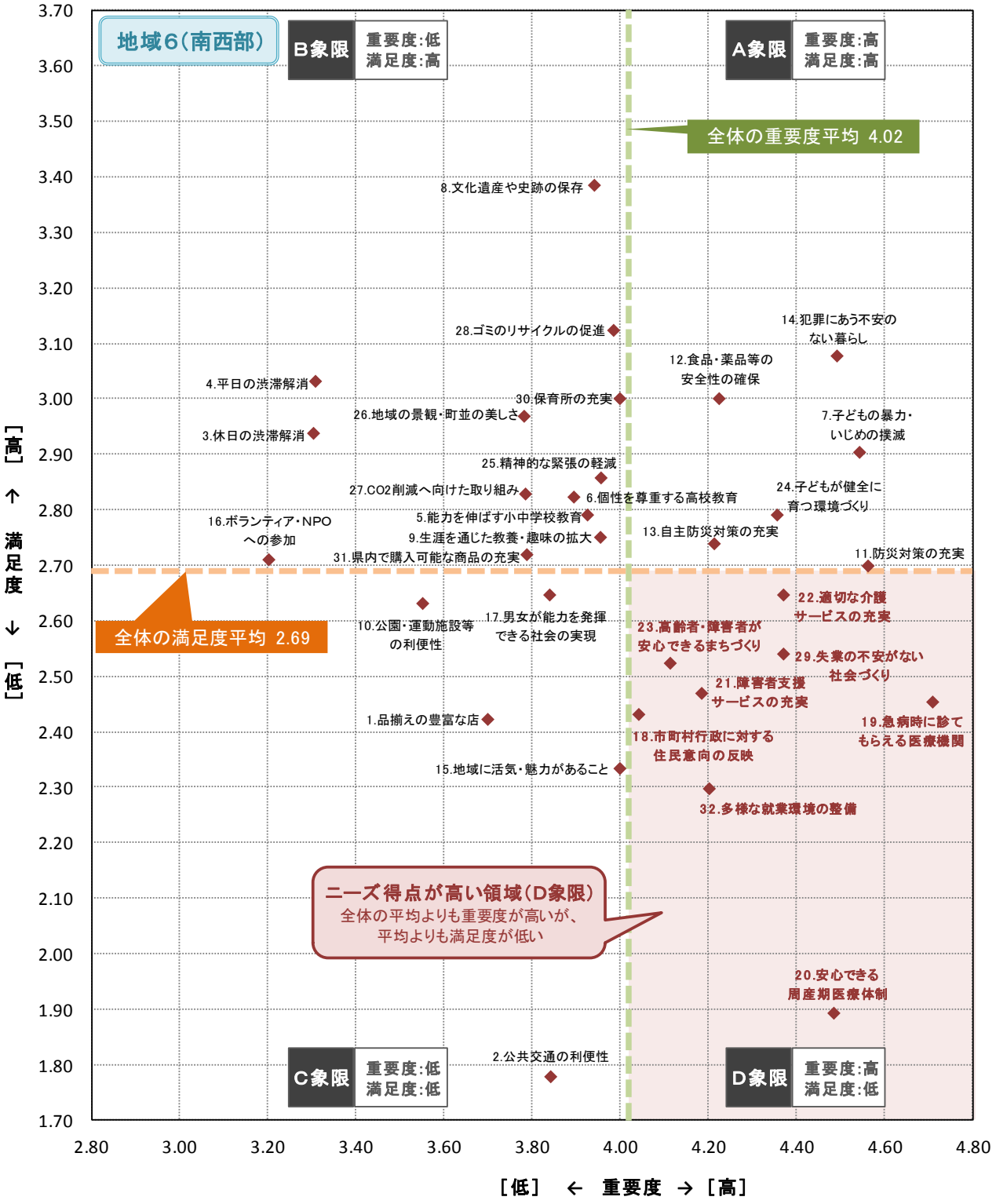


⑥地域６（南西部）

■『地域6（南西部）』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「2. 公共交通の利便性」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「28. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「20. 安心できる周産期医療体制」となっています。



3. 県民の生活に関する意識やニーズについて

3－1　観光振興について

（1）奈良県の観光・レクリエーションに足りないと感じるもの
（問 12　4つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■奈良県の観光･レクリエーションに足りないと感じるものについて尋ねたところ、「宿泊施設の充実」(54.1%)が最も多く、次いで「おいしい食べ物」(38.9%)、「魅力的なみやげ物」(35.0%)、「夜遅くまで営業している飲食店」(33.4%)、「十分な駐車場の確保」(32.0%)となっています。

■平成 26 年度、平成 25 年度と比較すると、「宿泊施設の充実」、「夜遅くまで営業している飲食店」、「十分な駐車場の確保」が増加しています。

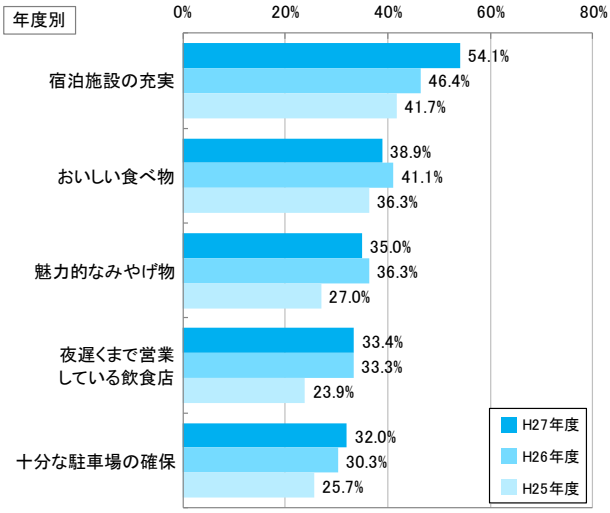
■「宿泊施設の充実」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域4(東部)』が最も多くなっています。

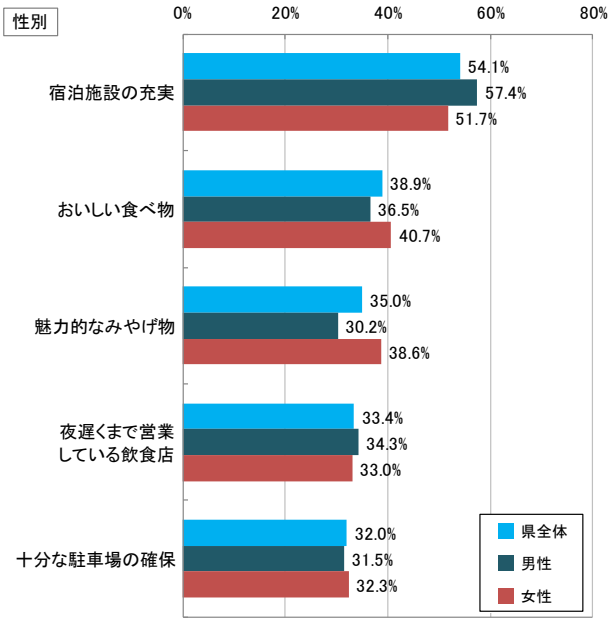
■「おいしい食べ物」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域3(中部)』が最も多くなっています。

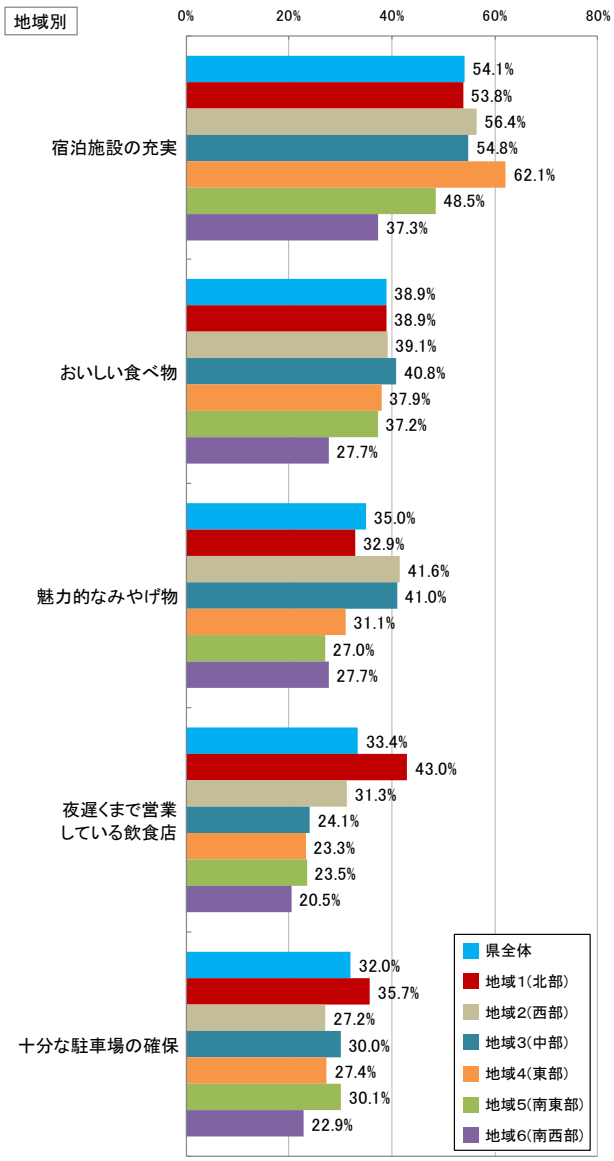
■「魅力的なみやげ物」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域2(西部)』が最も多くなっています。

■「夜遅くまで営業している飲食店」と答えた人については、性別では『男性』が多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。

■「十分な駐車場の確保」と答えた人については、性別では『女性』が多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。





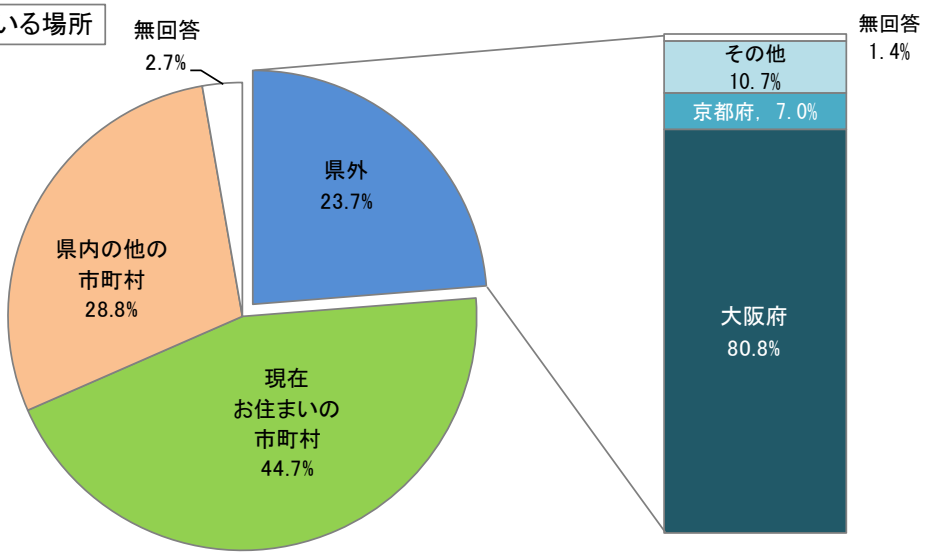


３－２　雇用対策の推進について

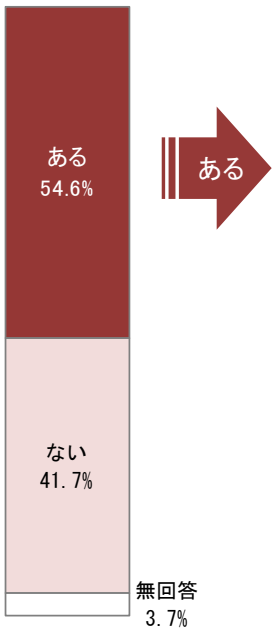
（１）働いている場所（問 14）と県内で働く意向・県外で働いている理由（問 15）

■仕事をしている人のうち「県外」で働いている人は 23.7%となっており、その内訳は「大阪府」が 80.8%を占めています。
■「県外」で働いている人のうち、「県内」で働きたいと考えたことがあるのは 54.6%となっています。
■「県内」で働きたいと考えたことがある人が、「県外」で働いている理由について尋ねたところ、「県内にぜひとも働きたいと思う会社がないから」(24.2%)が最も多くなっています。

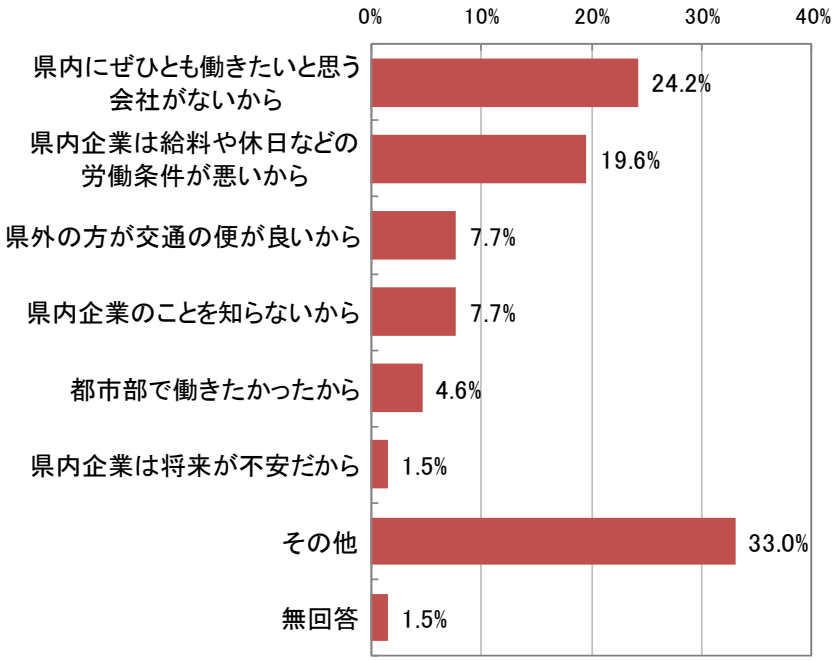
働いている場所



県外で働いている人が、
県内で働きたいと考えたことがあるか



県外で働いている理由



（２）女性が働く（働き続ける）ために必要だと思うこと

①女性が働き続けるために必要だと思うこと

（問 18-①　３つ以内で複数回答　県全体についての無回答を除く上位５項目を掲載）

■女性が仕事を辞めずに働き続けるために必要だと思うことは、県全体・男性・女性、すべてのライフステージともに「育児や介護のための休暇制度の充実や利用しやすい職場環境づくり」（県全体 58.1%）が最も多くなっています。

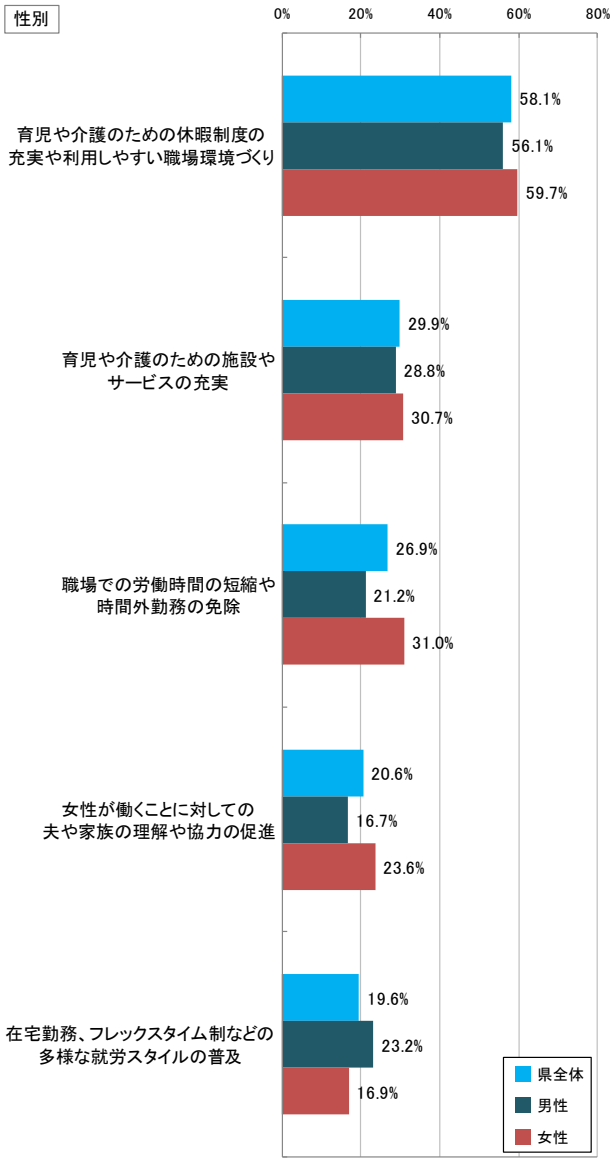
■「育児や介護のための休暇制度の充実や利用しやすい職場環境づくり」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。

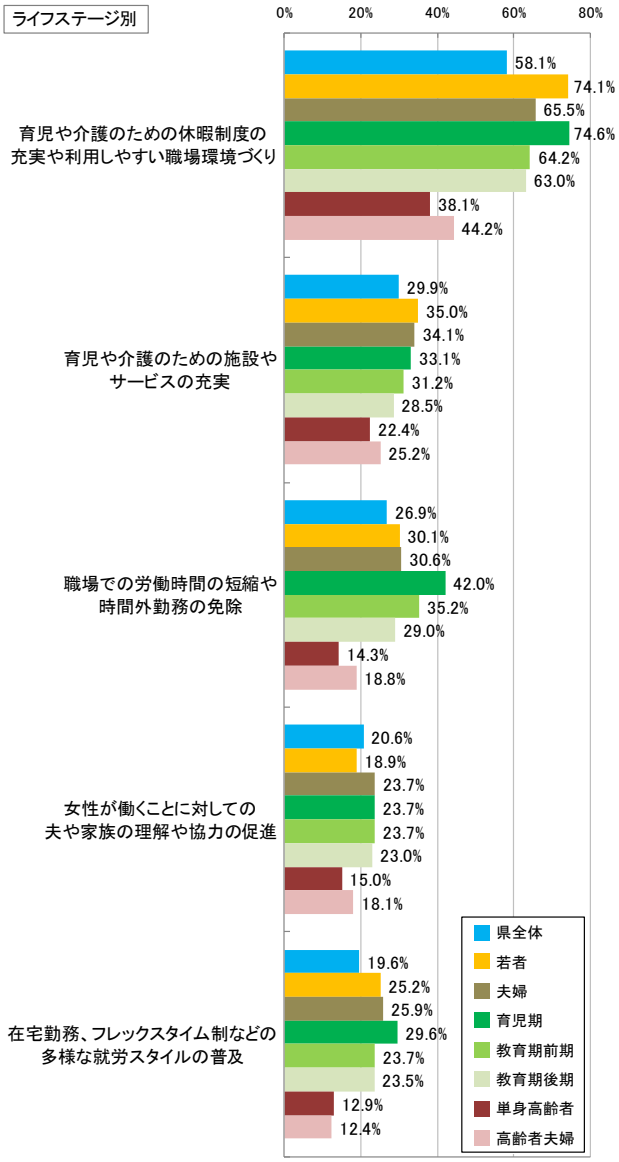
■「育児や介護のための施設やサービスの充実」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『若者』が最も多くなっています。

■「職場での労働時間の短縮や時間外勤務の免除」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。

■「女性が働くことに対しての夫や家族の理解や協力の促進」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『夫婦』、『育児期』、『教育期前期』が同率で最も多くなっています。

■「在宅勤務、フレックスタイム制などの多様な就労スタイルの普及」と答えた人は、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。





②女性が再就職するために必要だと思うこと

（問 18-②　３つ以内で複数回答　県全体についての無回答を除く上位５項目を掲載）

■女性が再就職するために必要だと思うことは、「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」（県全体34.3%）が、県全体・男性・女性、『育児期』を除く他のライフステージで最も多くなっています。『育児期』では「職場での労働時間の短縮や時間外勤務の免除」が最も多くなっています。

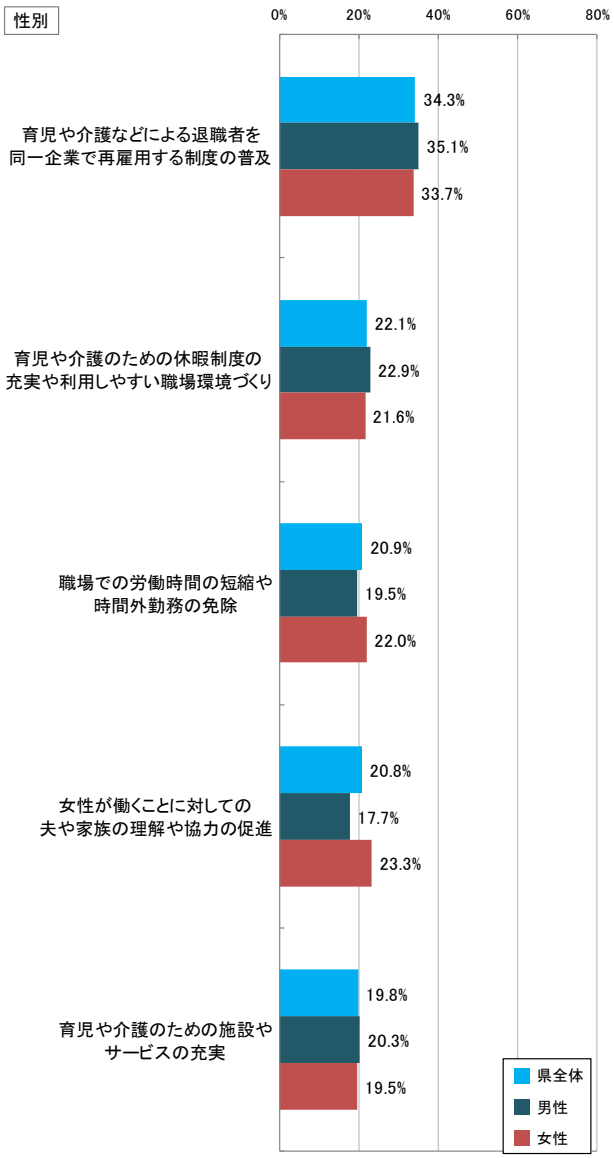
■「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」と答えた人は、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『若者』が最も多くなっています。

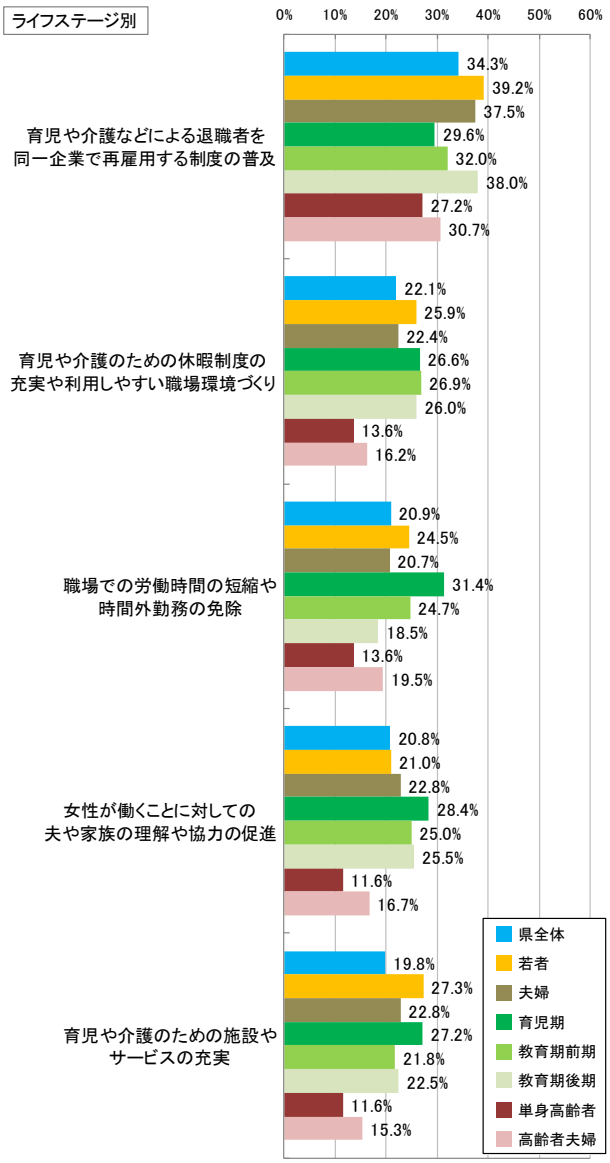
■「育児や介護のための休暇制度の充実や利用しやすい職場環境づくり」と答えた人は、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『教育期前期』が最も多くなっています。

■「職場での労働時間の短縮や時間外勤務の免除」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。

■「女性が働くことに対しての夫や家族の理解や協力の促進」と答えた人は、性別では『女性』が多く、ライフステージ別では『育児期』が最も多くなっています。

■「育児や介護のための施設やサービスの充実」と答えた人は、性別では『男性』が多く、ライフステージ別では『若者』が最も多くなっています。





３－３　女性支援の充実について

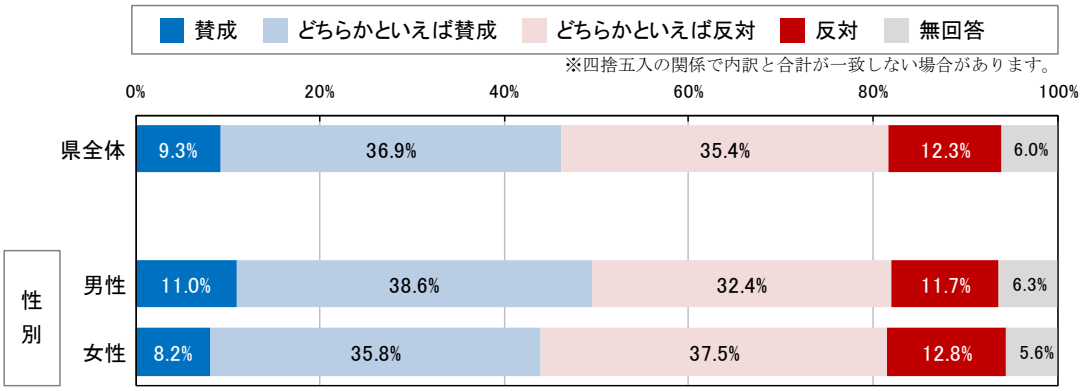
（１）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方の賛否とその理由

（問 19、問 20　複数回答、問 21　複数回答）

■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は 46.2％（男性 49.5％、女性 44.0％）、「どちらかといえば反対」または「反対」と答えた人の割合は 47.8％（男性 44.2％、女性 50.4％）となっています。

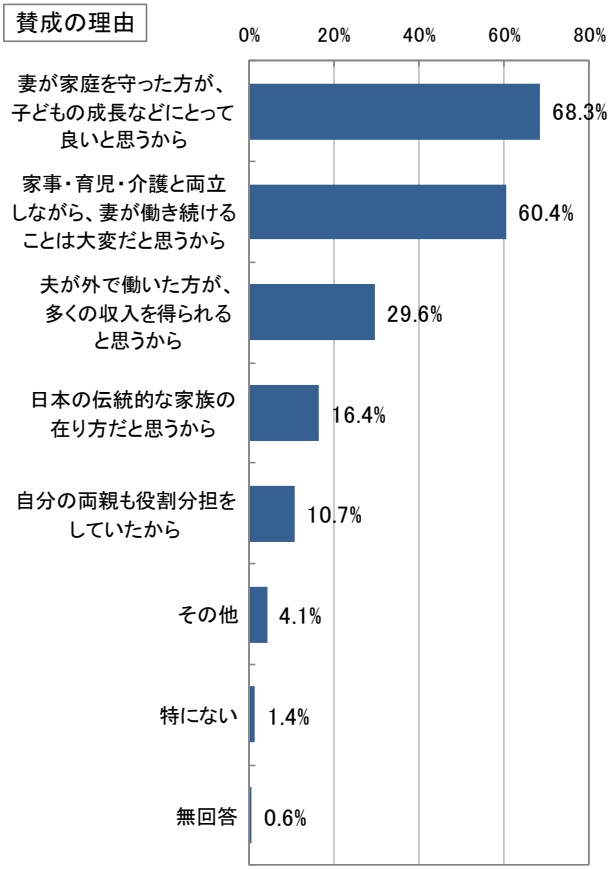
■「賛成」または「どちらかといえば賛成」の理由について尋ねたところ、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」（68.3％）が最も多くなっています。

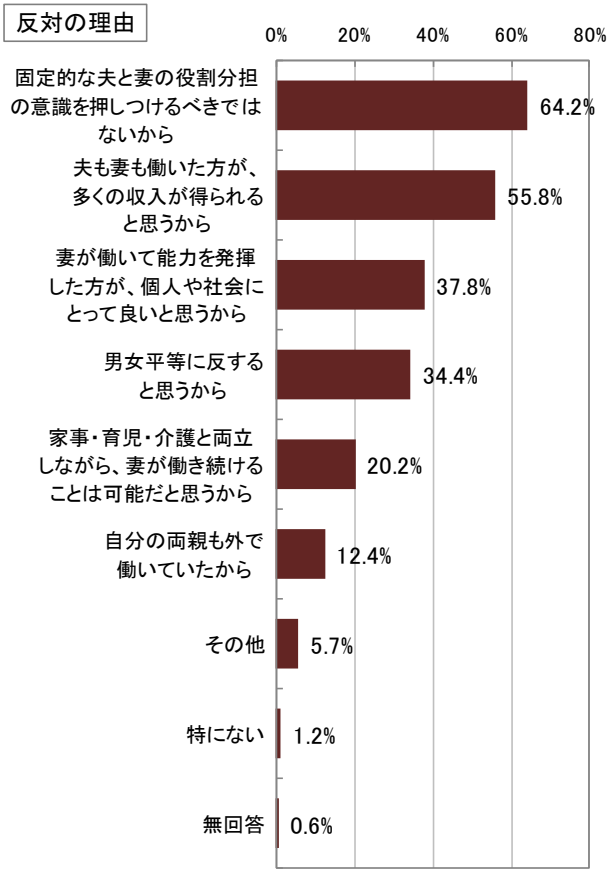
■「どちらかといえば反対」または「反対」の理由について尋ねたところ、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」（64.2％）が最も多くなっています。



《 賛 成 》
46.2%（男性49.5%　女性44.0%）

《 反 対 》
47.8%（男性44.2%　女性50.4%）





３－４　健康づくりの推進について

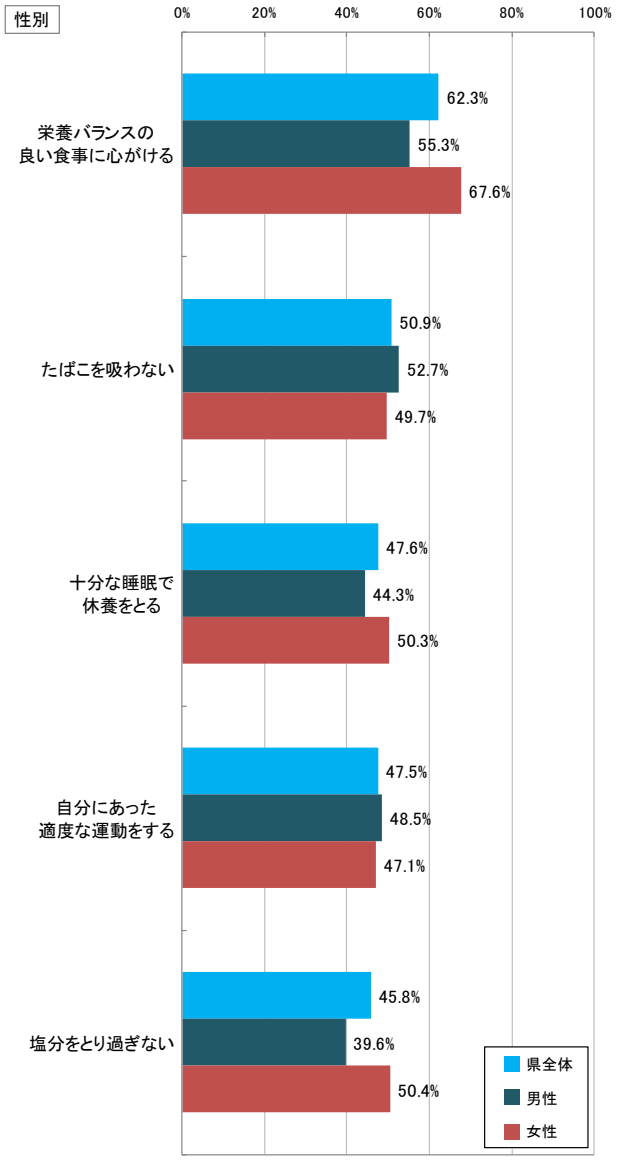
（１）自らの健康づくりの取組状況及び今後の意向

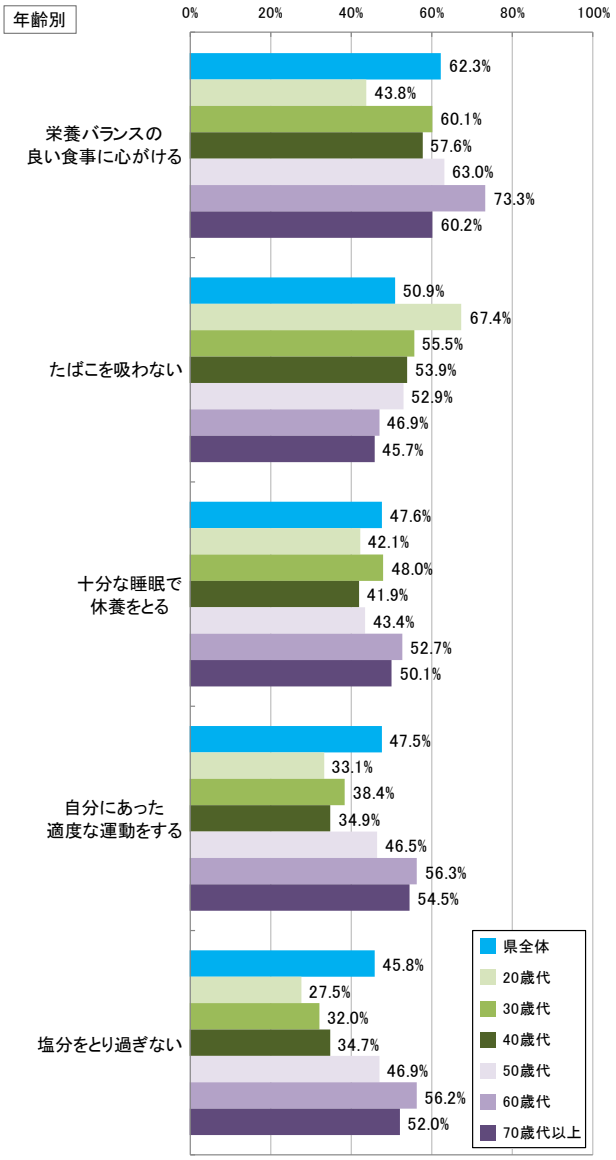
①この１年間にした健康づくり（問 22-①　複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、県全体・男性・女性ともに「栄養バランスの良い食事に心がける」（県全体 62.3%）が最も多くなっています。

■「栄養バランスの良い食事に心がける」、「塩分をとり過ぎない」については、『女性』の方が『男性』より 10 ポイント以上多くなっています。

■年齢別にみると、「たばこを吸わない」と答えた人は、若い年代ほど多くなっています。一方で、「自分にあった適度な運動をする」や「塩分をとり過ぎない」と答えた人は、概ね年代が高くなるほど多くなっています。





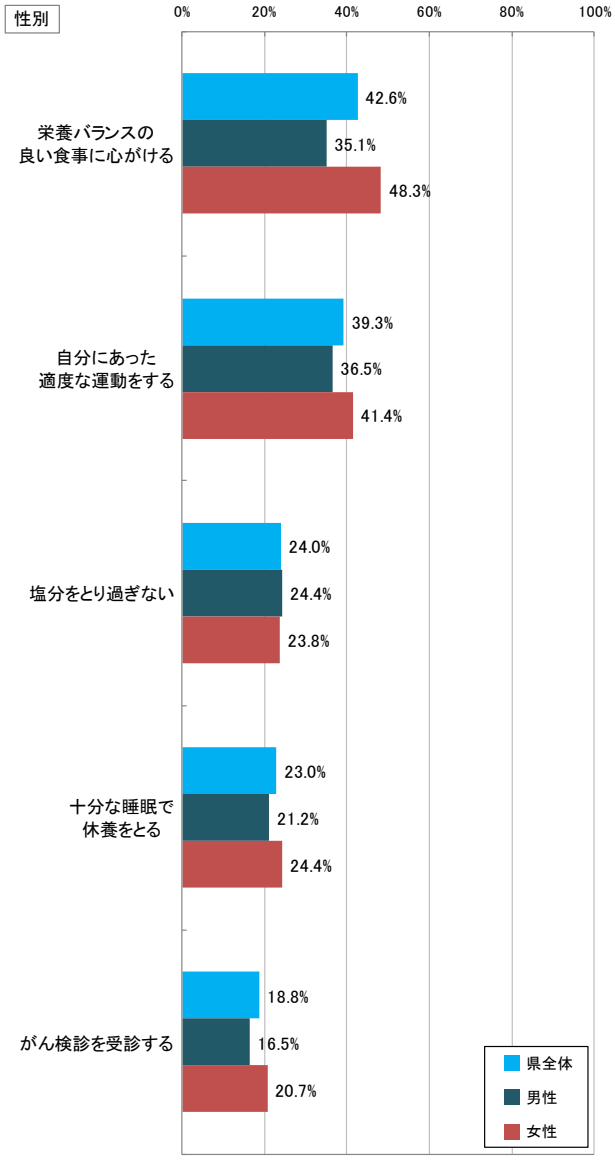
②今後したい健康づくり（問 22-②　３つ以内で複数回答）　県全体についての無回答を除く上位５項目を掲載

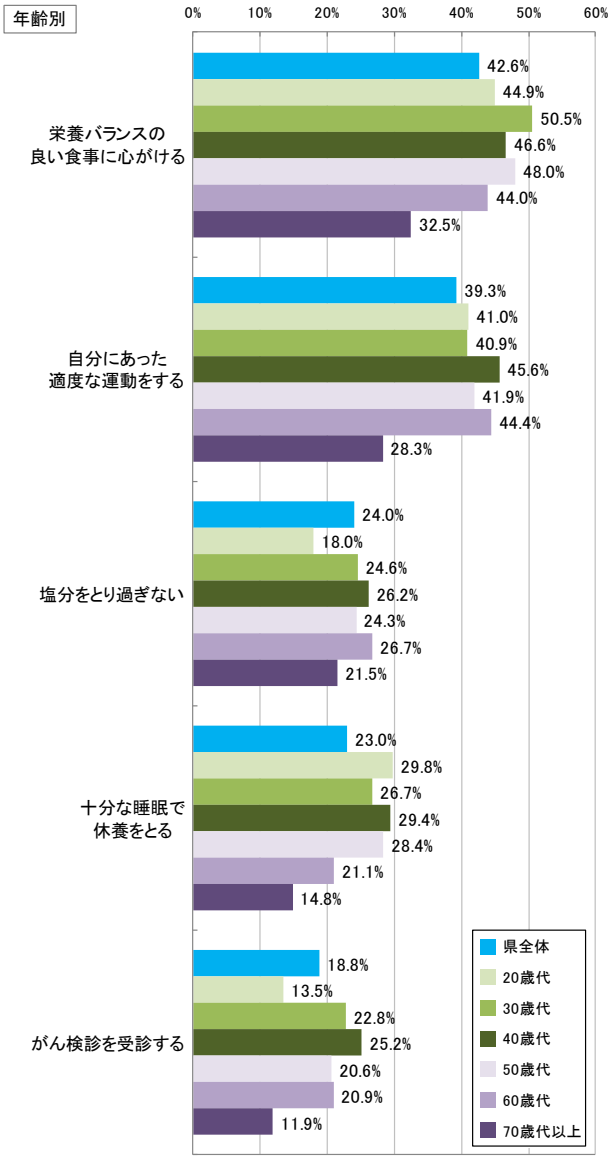
■今後、どのような健康づくりをしたいかは、県全体では「栄養バランスの良い食事に心がける」(42.6%)が最も多く、次いで「自分にあった適度な運動をする」(39.3%)となっています。

■性別にみると、男性では「自分にあった適度な運動をする」、女性では「栄養バランスの良い食事に心がける」が最も多くなっています。

■「栄養バランスの良い食事に心がける」については、『女性』の方が『男性』より 10 ポイント以上多くなっています。

■年齢別にみると、『60 歳代』を除く年代では「栄養バランスの良い食事に心がける」が最も多くなっています。『60 歳代』では「自分にあった適度な運動をする」が最も多く、次いで「栄養バランスの良い食事に心がける」となっています。





３－５　スポーツ振興について

（１）健康のための運動の実施状況

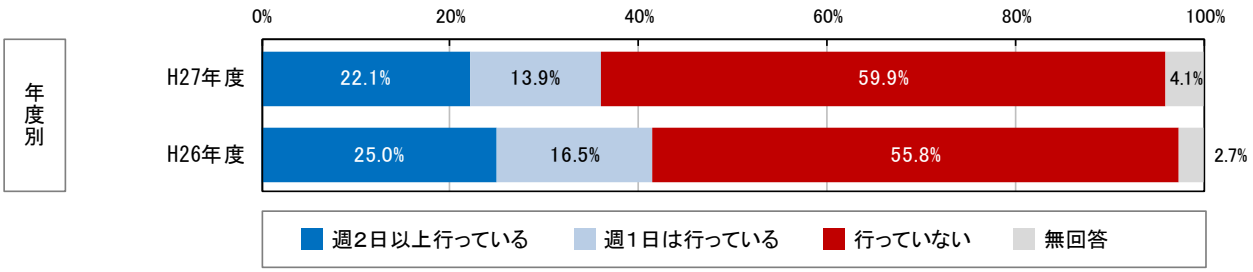
①過去１年以上、継続して 30 分以上の運動頻度（問 23）

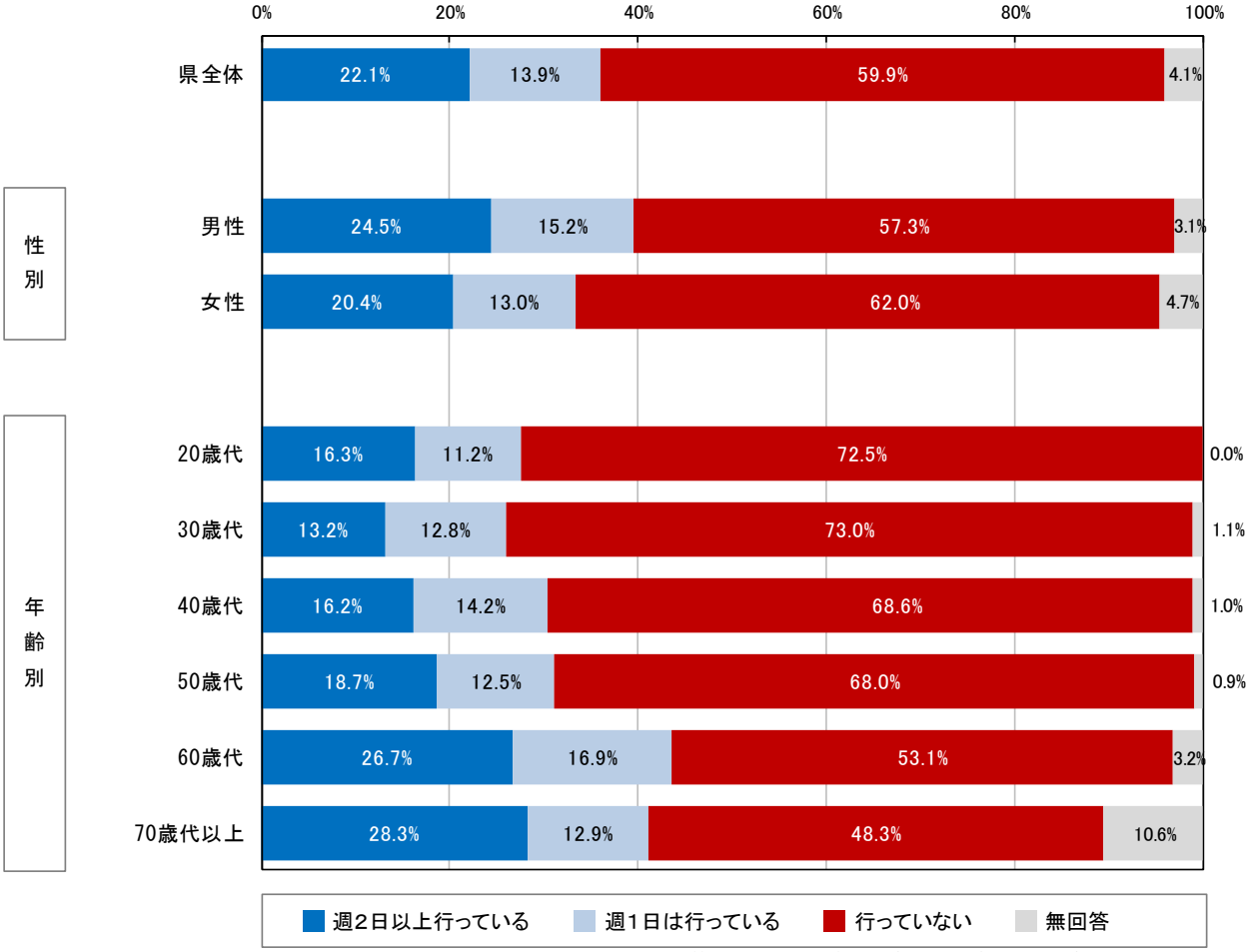
■過去1年以上、継続して 30 分以上の運動頻度は、「行っていない」(59.9%)が「行っている」(「週2日以上行っている」＋「週1日は行っている」)(36.0%)と比べ多くなっています。

■平成 26 年度と比較すると、「行っていない」と答えた人は 4.1 ポイント増加しています。一方で、「行っている」と答えた人は 5.5 ポイント減少しています。

■性別にみると、「行っている」と答えた人は、『男性』(39.6%)の方が『女性』(33.3%)よりも 6.3 ポイント多くなっています。

■年齢別にみると、「行っている」と答えた人は、『60 歳代』が最も多く、次いで『70 歳代以上』となっており、60 歳代以上では4割以上が運動を行っています。一方で、40～50 歳代では約3割、20～30 歳代では3割未満と、60 歳代以上と比べ少なくなっています。





※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

②過去１年以上、継続して 30 分以上の運動を行っていない人の理由
（問 25　３つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■過去1年以上、継続して 30 分以上の運動を行っていない人の理由を尋ねたところ、「仕事が忙しくて時間がないから」(40.6%)が最も多く、次いで「きっかけがつかめないから」(39.7%)、「身近なところに施設や場所がないから」(34.0%)、「費用がかかるから」(22.3%)、「病弱あるいは体力的に無理だから」(19.3%)となっています。

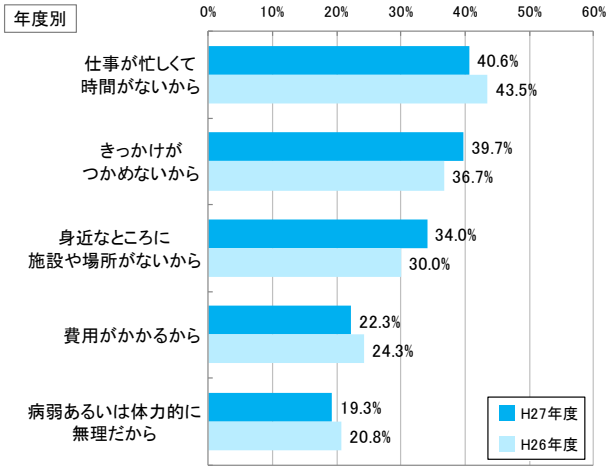
■平成 26 年度と比較すると、「身近なところに施設や場所がないから」(4.0 ポイント増)、「きっかけがつかめないから」(3.0 ポイント増)という理由が増加しています。

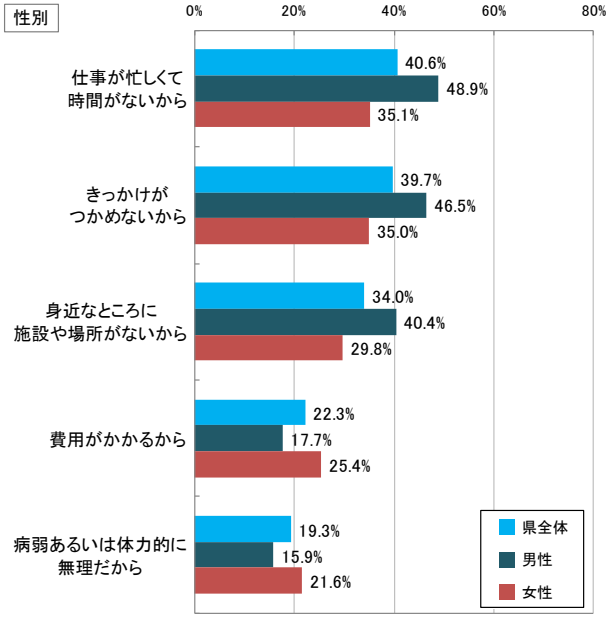
■「仕事が忙しくて時間がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『20 歳代』が最も多くなっています。

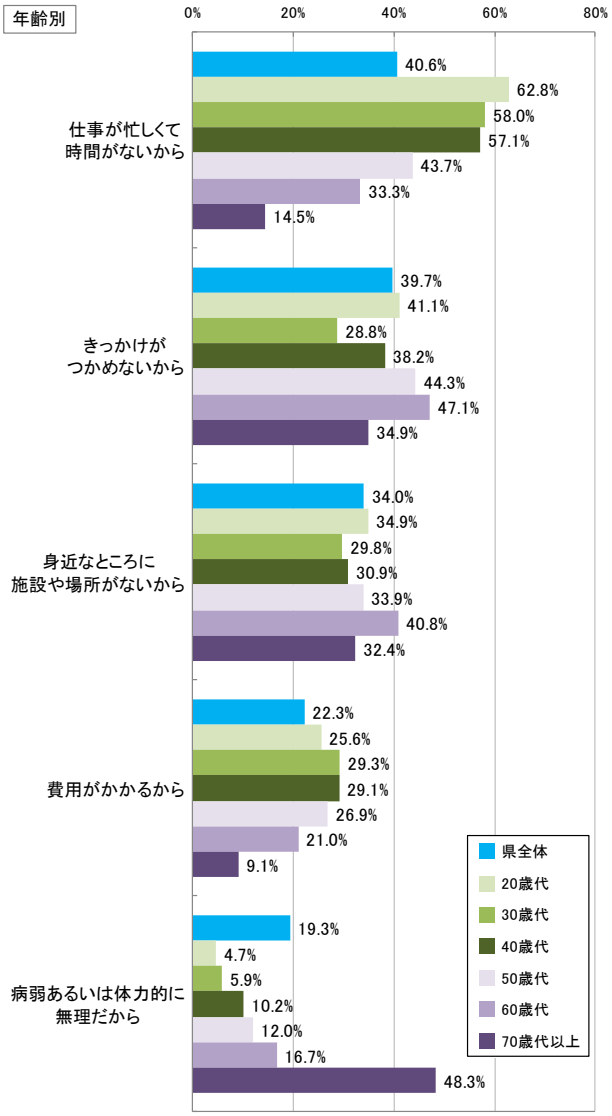
■「きっかけがつかめないから」「身近なところに施設や場所がないから」と答えた人は、性別では『男性』が多く、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。

■「費用がかかるから」と答えた人は、性別では『女性』が多く、年齢別では『30 歳代』が最も多くなっています。

■「病弱あるいは体力的に無理だから」と答えた人は、性別では『女性』が多く、年齢別では『70 歳代以上』が最も多くなっています。







３-６　文化振興について

（１）「ムジークフェストなら２０１５」の周知度及び鑑賞状況について

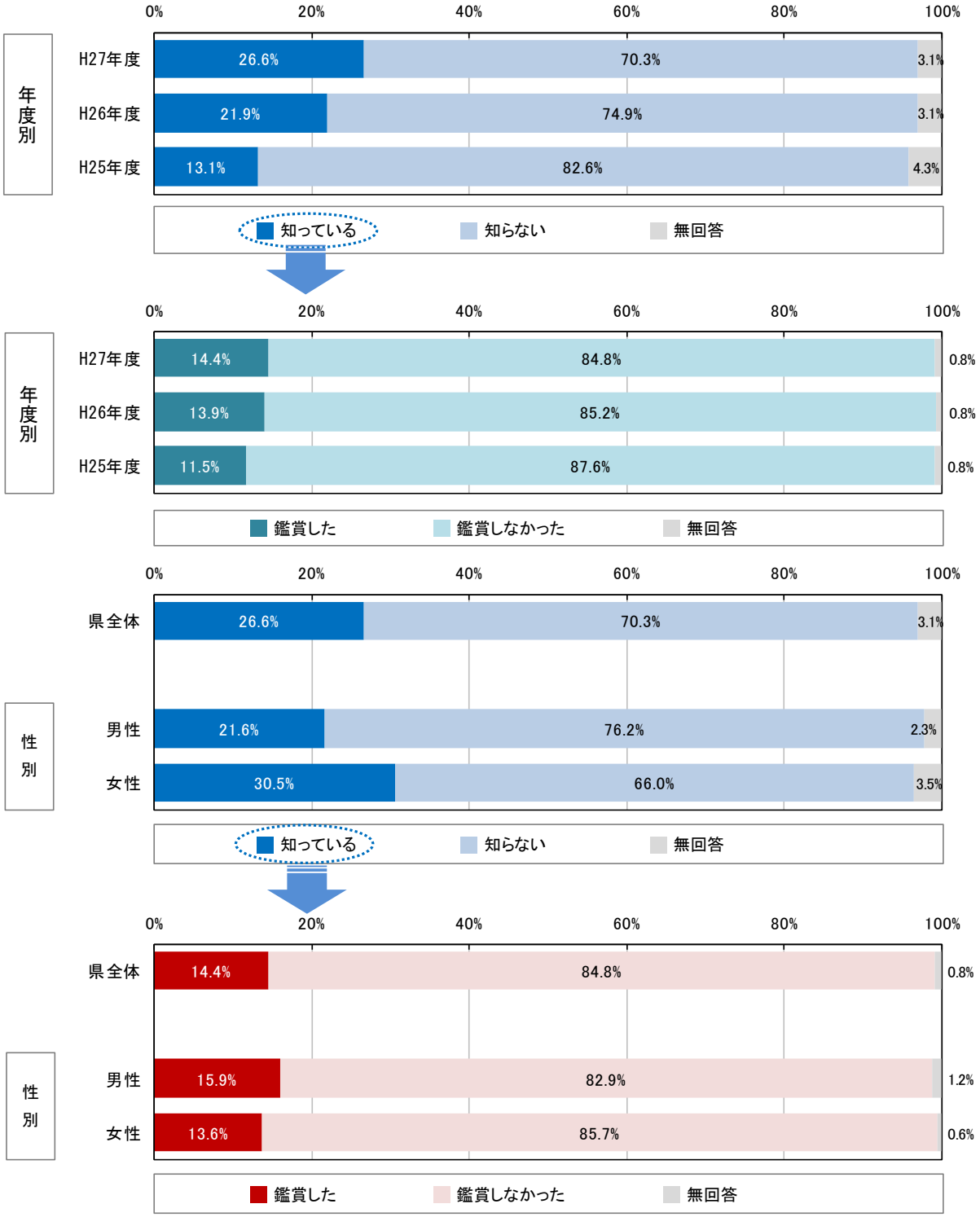
①「ムジークフェストなら２０１５」の周知度及び鑑賞の有無（問 27、問 28　）

■ムジークフェストなら 2015 の周知度については、「知らない」(70.3%)が「知っている」(26.6%)と比べ多くなっています。

■「知っている」(26.6%)と答えた人は、年々増加傾向にあり、平成 26 年度(21.9%)と比べ 4.7 ポイント増加し、平成 25 年度(13.1%)と比べるとほぼ2倍に増加しています。

■「知っている」と答えた人に鑑賞の有無を尋ねたところ、「鑑賞した」と答えた人は 14.4%となっており、年々増加傾向にあります。

■性別にみると、「知っている」と答えた人は、『女性』(30.5%)が『男性』(21.6%)と比べ多くなっています。また、「知っている」と答えた人のうち「鑑賞した」と答えた人は、『男性』で 15.9%、『女性』で 13.6%となっています。



②「ムジークフェストなら２０１５」を鑑賞しなかった理由
（問 29　３つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■ムジークフェストなら 2015 を鑑賞しなかった理由について尋ねたところ、平成 25 年度、平成 26 年度に引き続き、「時間がなかった」(58.3%)が最も多くなっています。次いで「会場が遠かった」(30.8%)、「興味がなかった」(23.6%)、「聴きたいと思う公演がなかった」(20.2%)、「無料公演のスケジュールや会場がわからなかった」(15.0%)となっています。

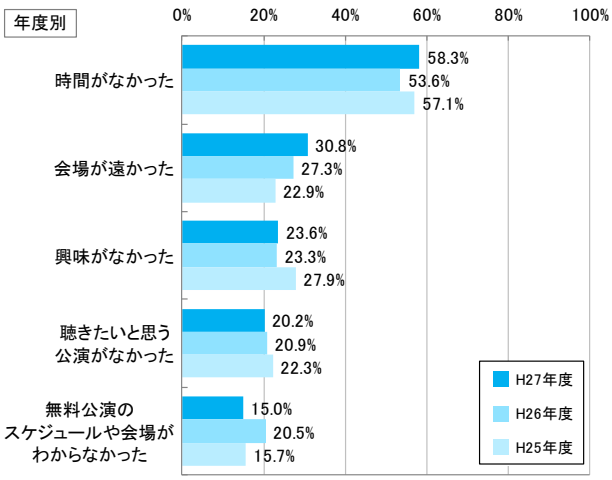
■「時間がなかった」と答えた人は、性別では『女性』が多く、地域別では『地域6(南西部)』が最も多くなっています。

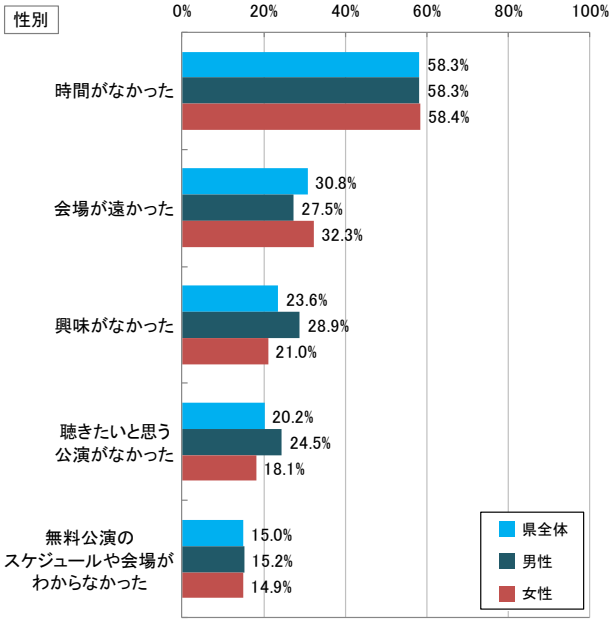
■「会場が遠かった」と答えた人は、性別では『女性』が多く、地域別では『地域6(南西部)』が最も多くなっています。

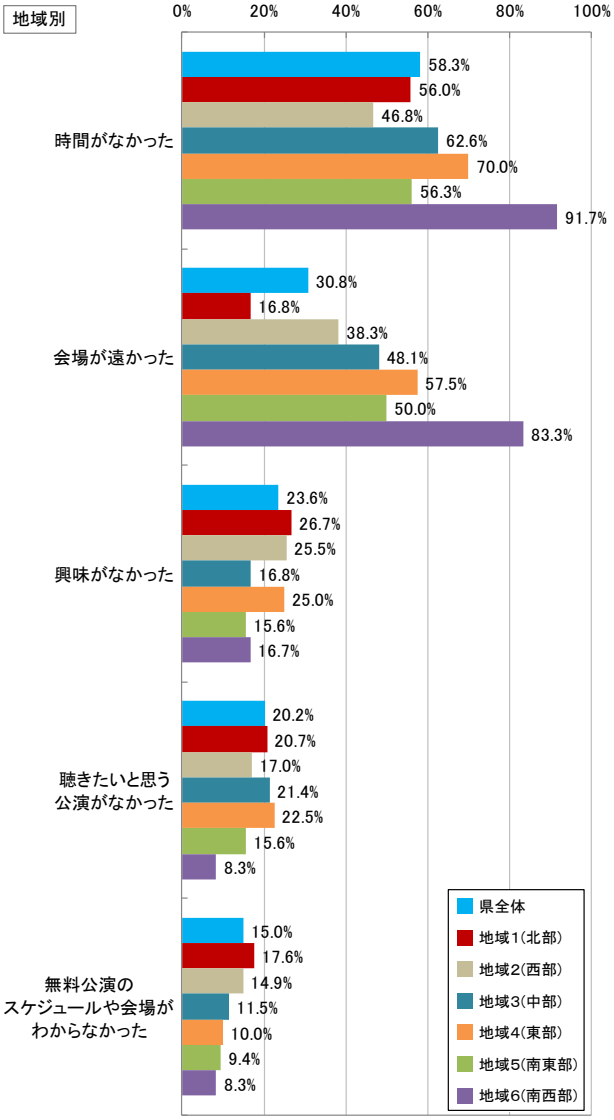
■「興味がなかった」と答えた人は、性別では『男性』が多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。

■「聴きたいと思う公演がなかった」と答えた人は、性別では『男性』が多く、地域別では『地域4(東部)』が最も多くなっています。

■「無料公演のスケジュールや会場がわからなかった」と答えた人は、性別では『男性』が多く、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。







３－７　安全・安心の確保について

（１）地域の治安の変化

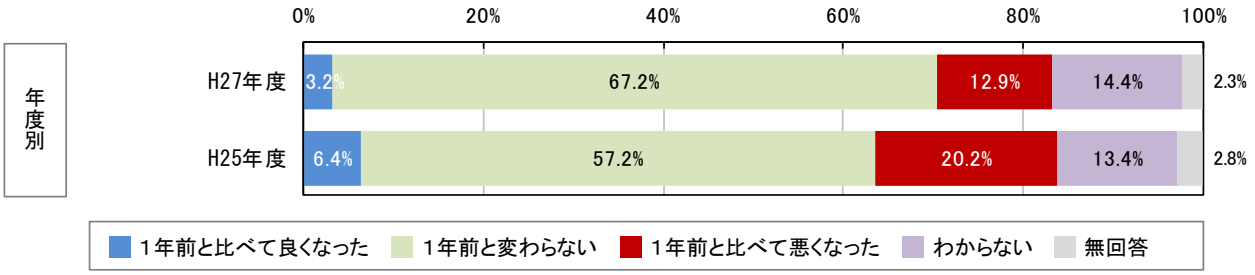
①１年前と比べた地域の治安の変化（問 30）

■１年前と比べた居住地域の治安については、「１年前と変わらない」(67.2％)が最も多く、次いで「１年前と比べて悪くなった」(12.9％)となっています。

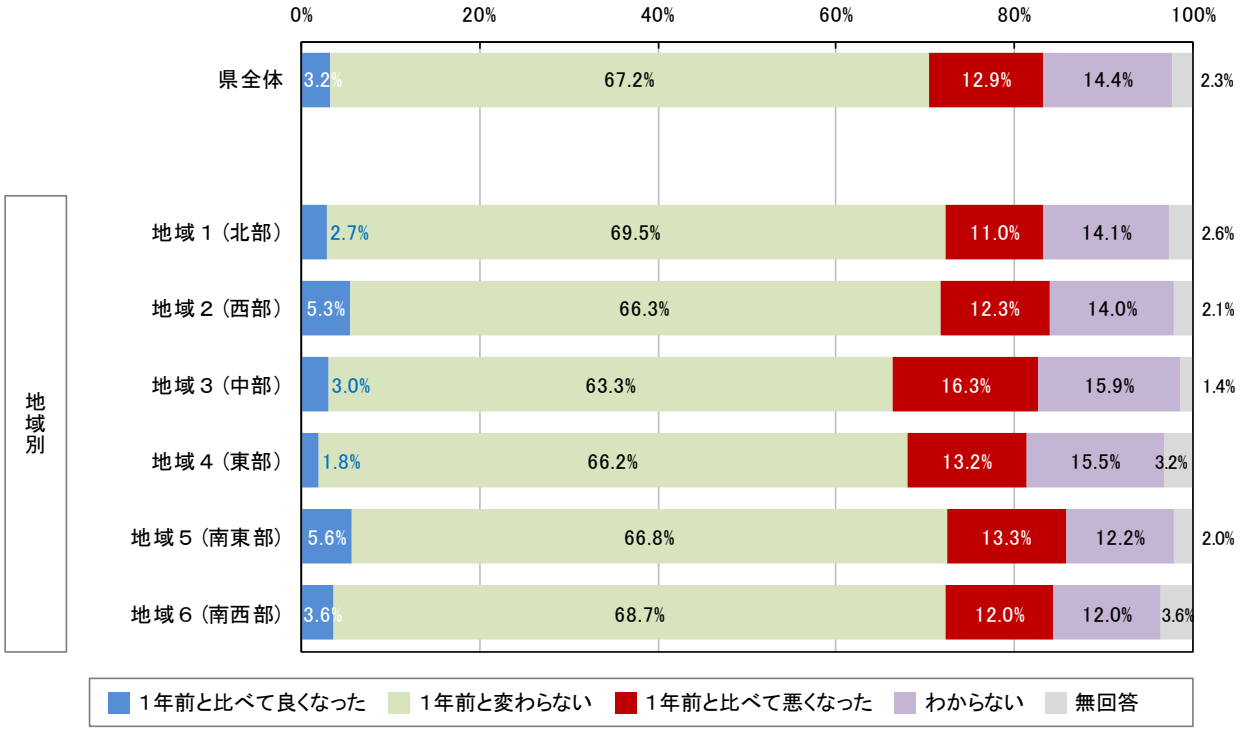
■前回調査(平成 25 年度)と比較すると、「悪くなった」と答えた人は、7.3 ポイント減少しています。

■地域別にみると、「１年前と比べて良くなった」と答えた人は、『地域５(南東部)』(5.6％)が最も多く、次いで『地域２(西部)』(5.3％)となっています。

■一方で、「１年前と比べて悪くなった」と答えた人は、『地域３(中部)』(16.3％)が最も多く、他の地域よりも割合が高くなっています。



※H25年度調査と選択肢の一部に違いがあるため、単純比較はできない



②地域の治安が悪くなったと思う理由

（問 31　３つ以内で複数回答　地域別は県全体についての上位５項目を掲載）

■地域の治安が悪くなったと思う理由について尋ねたところ、「交通事故やマナー悪化」(45.4%)が最も多く、次いで「空き巣等の窃盗犯が発生」(40.6%)、「住民のモラル低下」(35.4%)、「住民の連帯意識希薄化」(27.4%)、「子供・女性・高齢者への犯罪が発生」(19.4%)となっています。

■前回調査(平成 25 年度)と比較すると、前回調査で最も多かった「空き巣等の窃盗犯が発生」(20.7 ポイント減)は大幅に減少しています。一方で、「子供・女性・高齢者への犯罪が発生」は 10.0 ポイント増加しています。

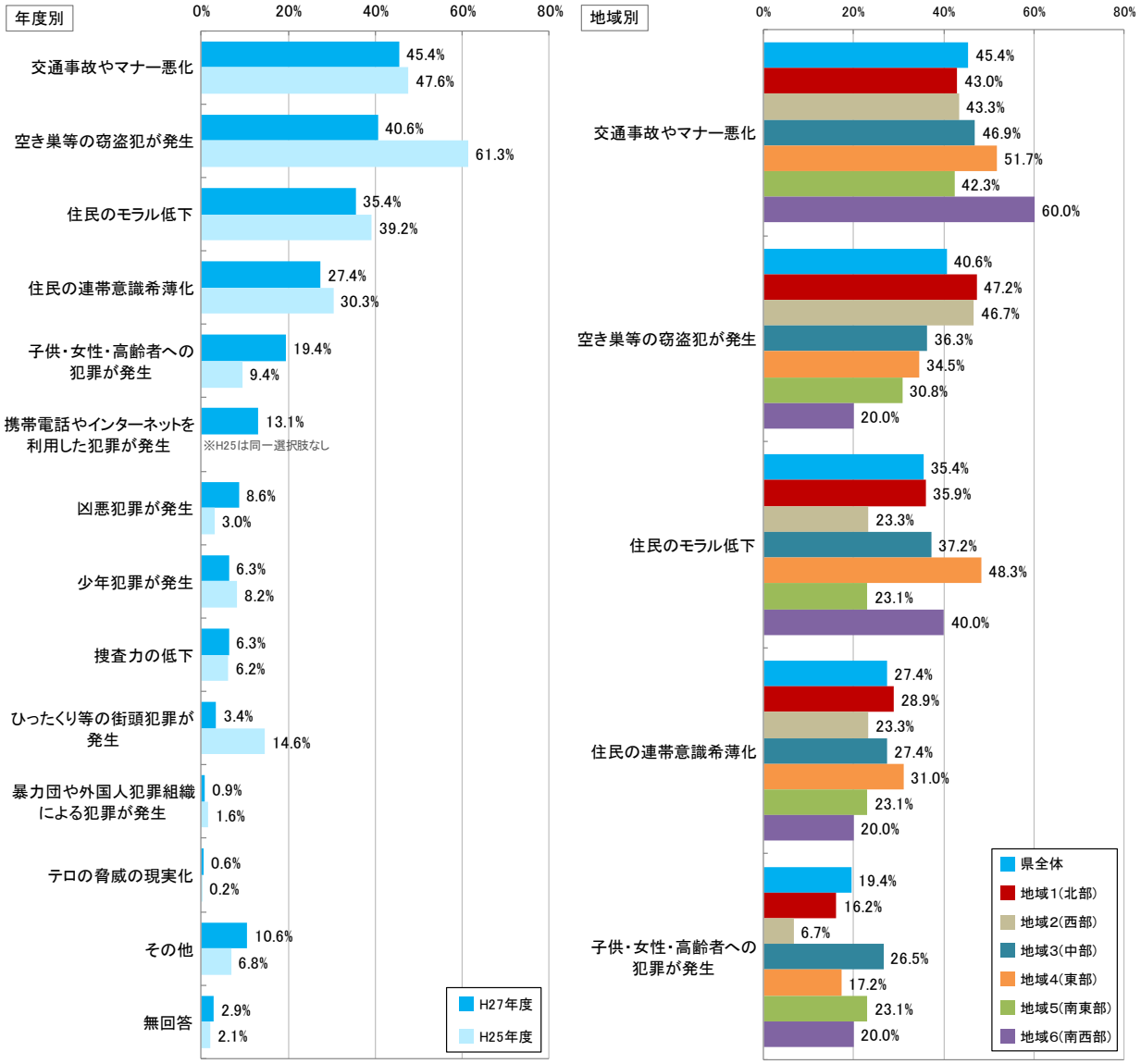
■「交通事故やマナー悪化」と答えた人は、『地域6(南西部)』(60.0%)が最も多くなっています。

■「空き巣等の窃盗犯が発生」と答えた人は、『地域1(北部)』(47.2%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(46.7%)となっています。

■「住民のモラル低下」と答えた人は、『地域4(東部)』が最も多くなっています。

■「住民の連帯意識希薄化」と答えた人は、『地域4(東部)』が最も多くなっています。

■「子供・女性・高齢者への犯罪が発生」と答えた人は、『地域3(中部)』が最も多くなっています。一方で、『地域2(西部)』は6.7%と他の地域と比べ少なくなっています。



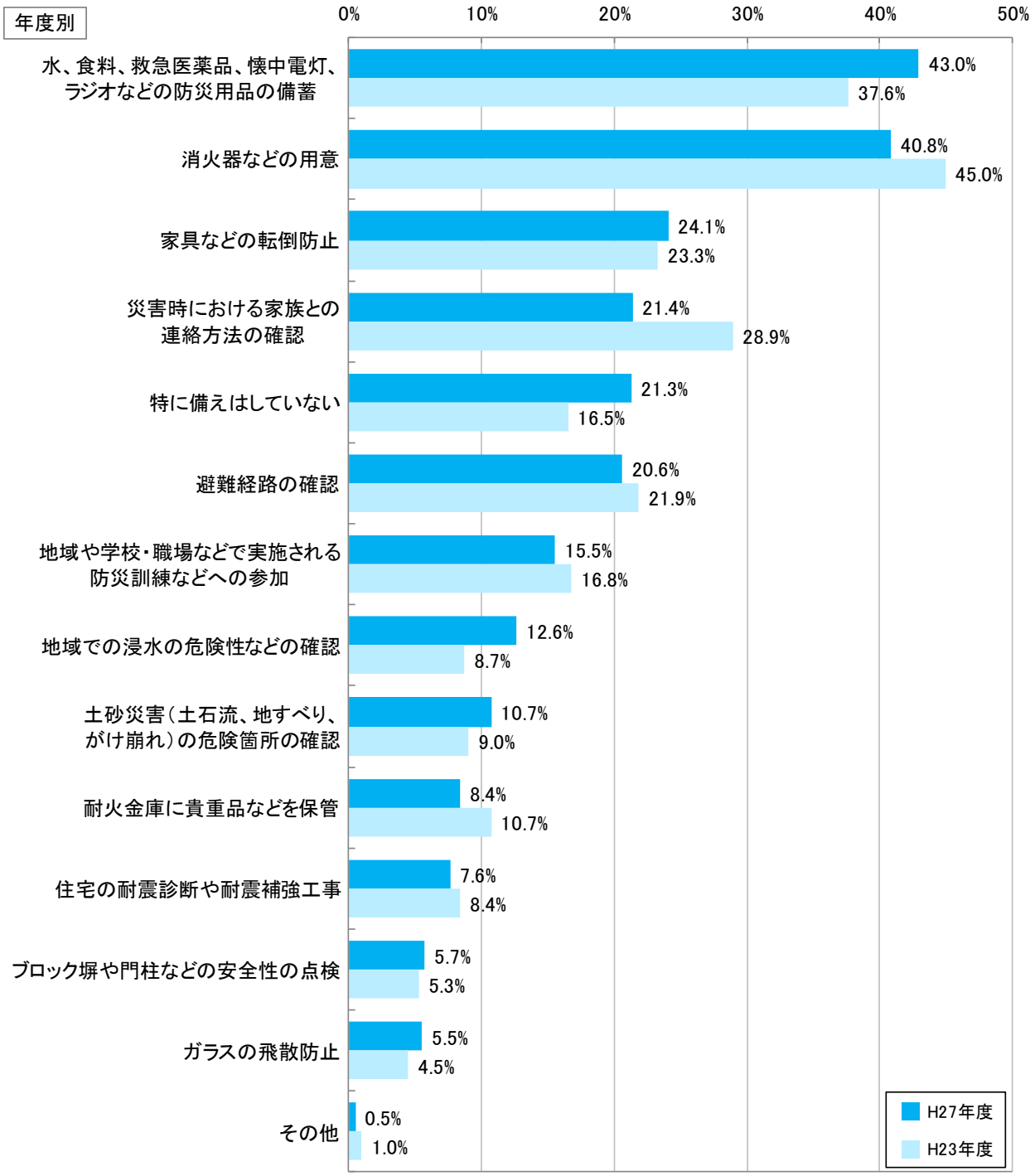
※H25年度調査と選択肢の一部に違いがあるため、単純比較はできない

（２）自然災害対策として備えていること（問 34　複数回答）

■自然災害等への対策として備えていることは、「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」（43.0%）が最も多く、次いで「消火器などの用意」（40.8%）、「家具などの転倒防止」（24.1%）となっています。

■前回調査（平成 23 年度）と比較すると、「水、食料、救急医薬品、懐中電灯、ラジオなどの防災用品の備蓄」は 5.4 ポイント増加しています。一方で、前回調査で最も多かった「消火器などの用意」は 4.2 ポイント減少しています。

■「特に備えはしていない」は 21.3%となっており、前回調査よりも 4.8 ポイント増加しています。



※無回答を除く
※H23年度調査と選択肢の一部に違いがあるため、単純比較はできない

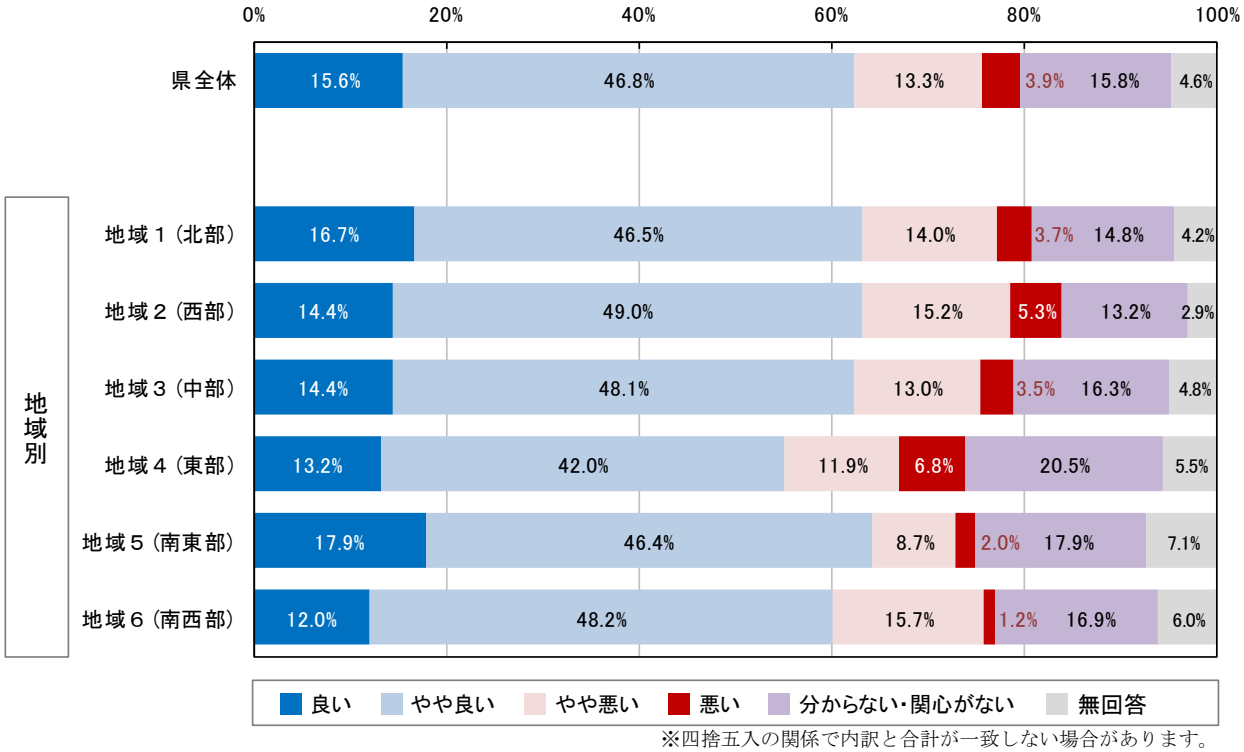
３－８　景観・環境の保全と創造について

（１）奈良県の環境の現状（問 35）

■奈良県の環境の現状については、「良い」または「やや良い」が 62.4%となっています。

■地域別にみると、「良い」または「やや良い」と答えた人は、『地域５（南東部）』(64.3%）が最も多く、次いで『地域２（西部）』(63.4%)、『地域1（北部）』(63.2%)となっています。

■一方で、「悪い」または「やや悪い」と答えた人は、『地域2（西部）』(20.6%）が最も多く、次いで『地域4（東部）』(18.7%)、『地域1（北部）』(17.7%)となっています。



※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

（２）関心のある環境問題（問 36　複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）

■関心のある環境問題は、「地球温暖化」(65.2%)が最も多く、次いで「大気汚染(PM2.5 等)」(51.0%)、「ごみ問題(不法投棄含む)」(49.5%)、「水質汚濁(河川環境・飲み水等)」(36.3%)、「森林減少・荒廃」(25.3%)となっています。

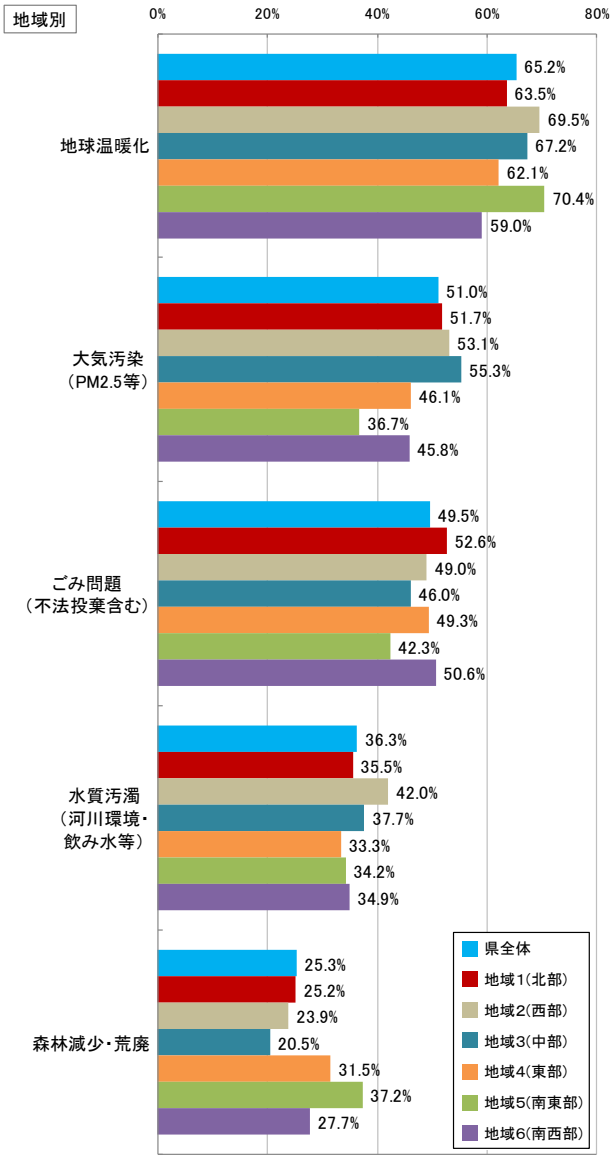
■「地球温暖化」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、次いで『地域2(西部)』となっています。年齢別では『50 歳代』が最も多く、次いで『60 歳代』、『70 歳代以上』となっており、50 歳代以上では 65%以上が関心を持っています。

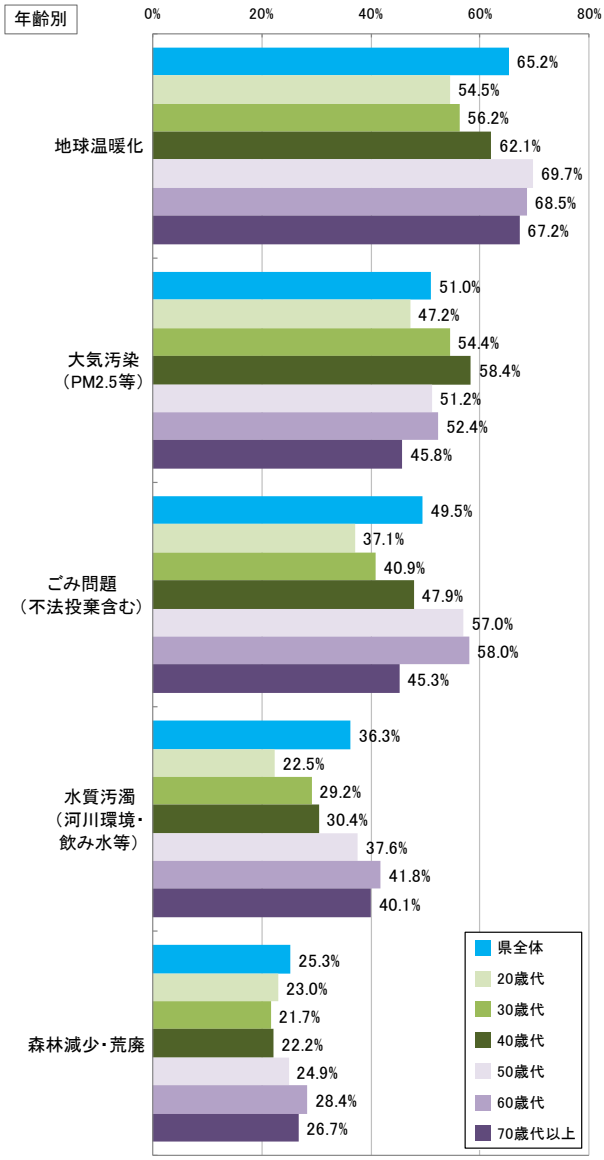
■「大気汚染(PM2.5 等)」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』、年齢別では『40 歳代』が最も多くなっています。

■「ごみ問題(不法投棄含む)」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』が最も多くなっています。年齢別では『60 歳代』が最も多く、次いで『50 歳代』となっています。一方で、『20 歳代』では 37.1%と他の年代と比べ少なくなっています。

■「水質汚濁(河川環境・飲み水等)」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。一方で、『20 歳代』では 22.5%と他の年代と比べ少なくなっています。

■「森林減少・荒廃」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。





（３）地域の景観（問 37　３つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載、問 38）

■地域で景観を損ねているものは、「道路や河川の雑草」(40.3%)が最も多く、次いで「ゴミやタバコのポイ捨て」(39.1%)、「不法投棄」(31.2%)、「ペットや鳥の排泄物」(22.1%)、「耕作放棄地」(21.8%)となっています。

■「道路や河川の雑草」と答えた人は、『地域2(西部)』が最も多く、次いで『地域6(南西部)』となっています。

■「ゴミやタバコのポイ捨て」と答えた人は、『地域3(中部)』が最も多くなっています。一方で、『地域5(南東部)』は他の地域と比べ少なくなっています。

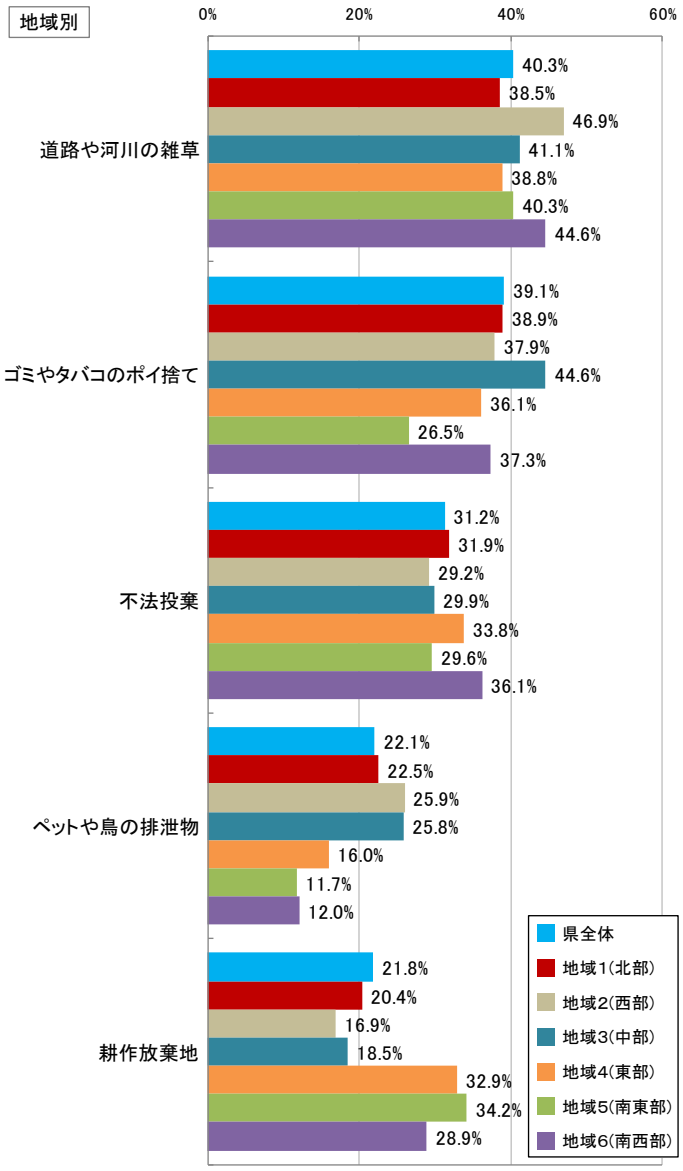
■「不法投棄」と答えた人は、『地域6(南西部)』が最も多く、次いで『地域4(東部)』となっています。

■「ペットや鳥の排泄物」と答えた人は、『地域2(西部)』が最も多く、次いで『地域3(中部)』となっています。

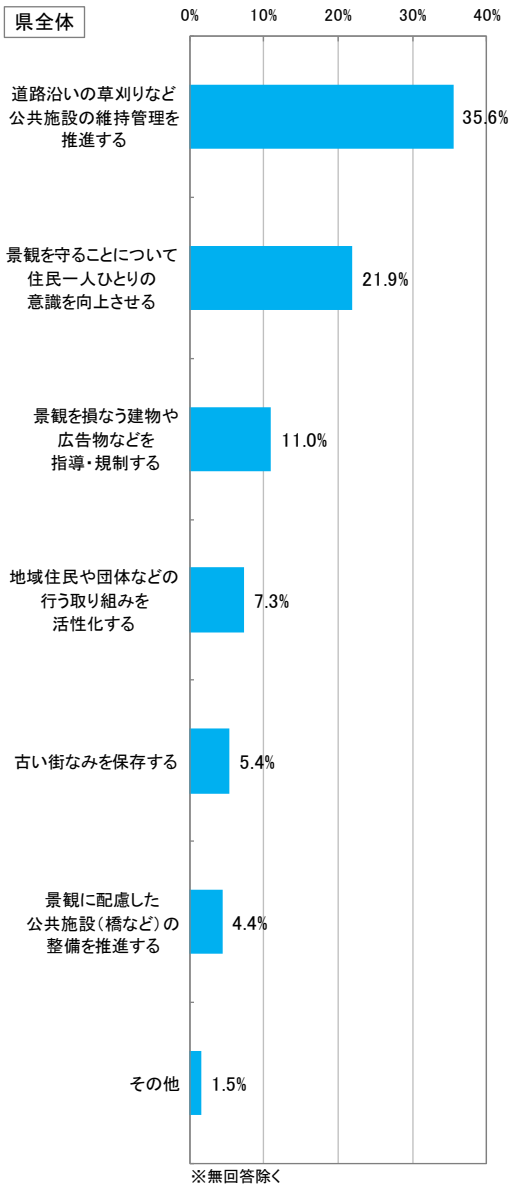
■「耕作放棄地」と答えた人は、『地域5(南東部)』が最も多く、次いで『地域4(東部)』、『地域6(南西部)』となっています。

■景観を守るため、行政が力を入れて取り組むべきことは、「道路沿いの草刈りなど公共施設の維持管理を推進する」(35.6%)が最も多く、次いで「景観を守ることについて住民一人ひとりの意識を向上させる」(21.9%)、「景観を損なう建物や広告物などを指導・規制する」(11.0%)となっています。

①地域で景観を損ねているもの（問 37）
（３つ以内で複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）



②景観を守るため、行政はどのようなことに力を入れて取り組むべきか（問 38）



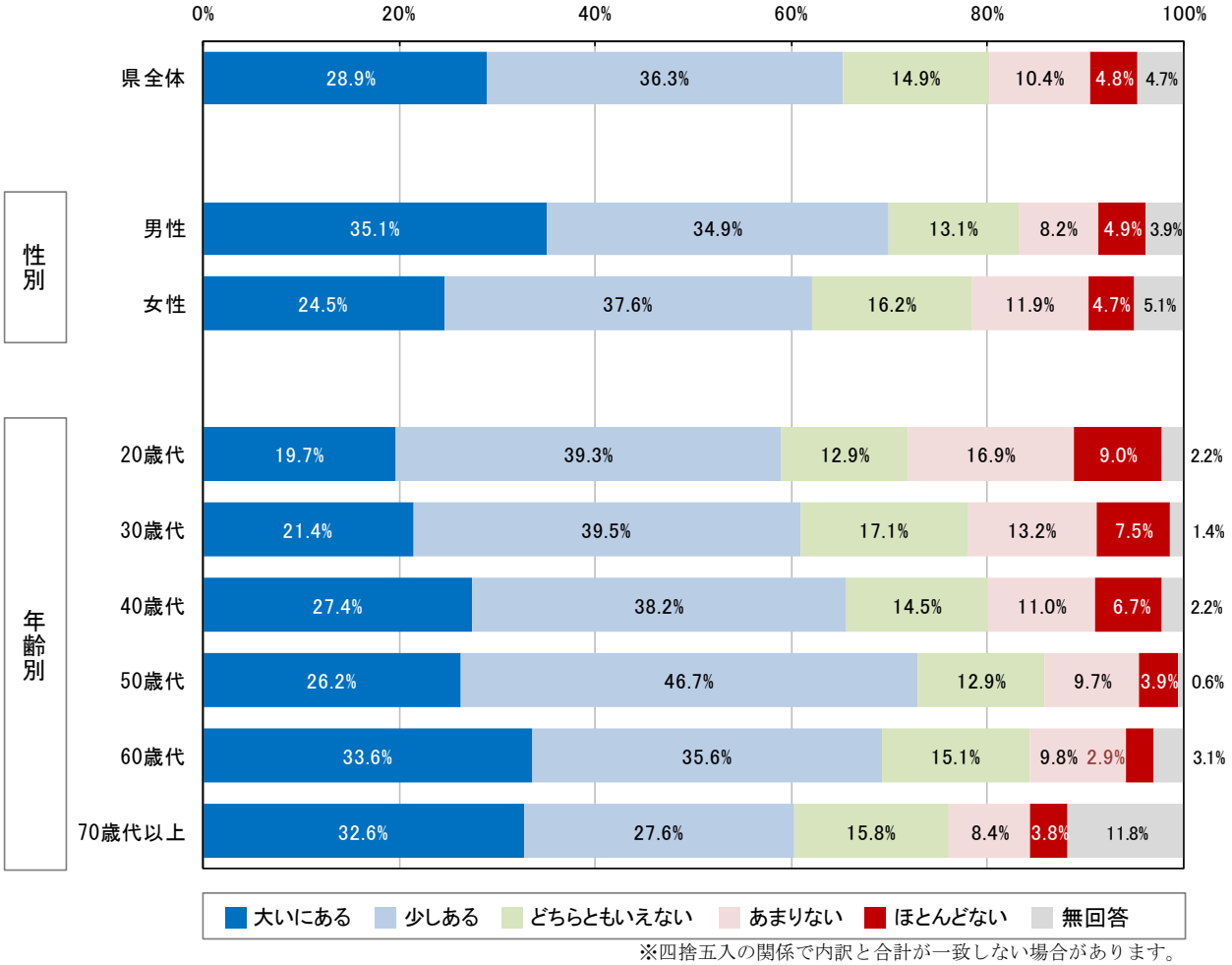
３－９　エネルギー政策の推進について

（１）「再生可能エネルギー等の利活用」への関心（問 39）

■再生可能エネルギー等の利活用への関心は、「大いにある」または「少しある」(65.2%)が、「あまりない」または「ほとんどない」(15.1%)を大きく上回っています。

■「大いにある」または「少しある」と答えた人を性別にみると、『男性』(69.9%)の方が『女性』(62.1%)より多くなっています。

■「大いにある」または「少しある」と答えた人を年齢別にみると、『50 歳代』(72.9%)が最も多く、次いで『60 歳代』(69.2%)、『40 歳代』(65.6%)となっています。一方で、20～30 歳代では「あまりない」または「ほどんとない」と答えた人が2割以上を占め、他の年代と比べて関心のない割合が高くなっています。



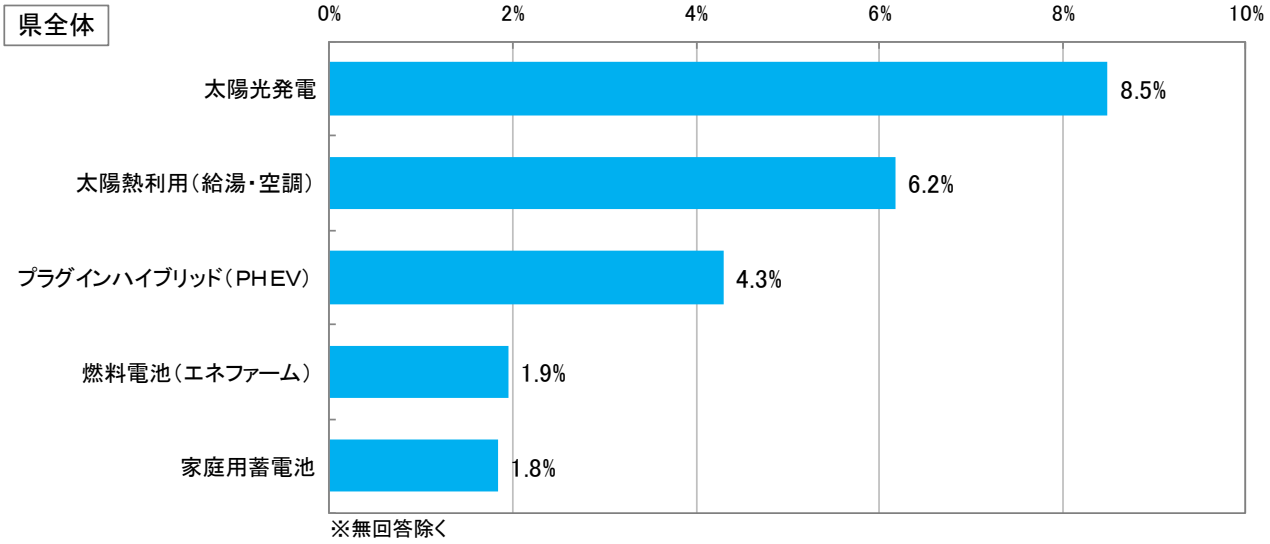
※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しない場合があります。

（２）再生可能エネルギー等の導入状況

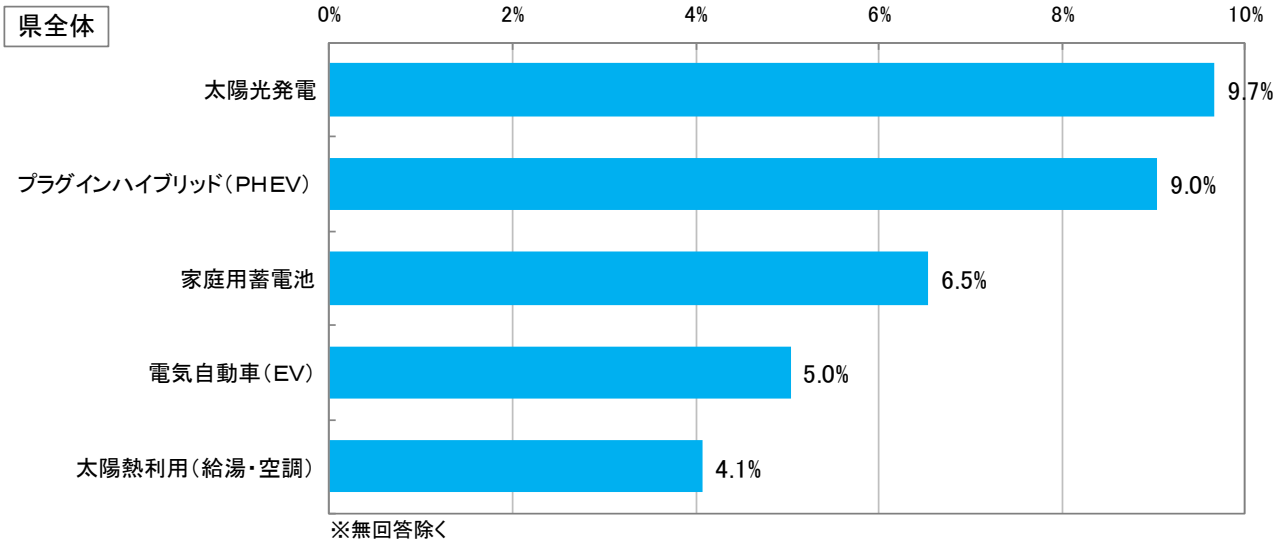
■再生可能エネルギー等の家庭への導入状況は、導入済みのものは「太陽光発電」(8.5%)が最も多く、次いで「太陽熱利用(給湯・空調)」(6.2%)となっています。

■導入を検討しているものは、「太陽光発電」(9.7%)が最も多く、次いで「プラグインハイブリッド(PHEV)」(9.0%)となっています。

①家庭に導入済みのもの（問 40-①　複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）



②導入を検討しているもの（問 40-②　複数回答　県全体についての上位５項目を掲載）



（３）省エネ・節電のための日常的な取組状況

（問 42　複数回答　性別・年齢別は県全体についての上位５項目を掲載）

■省エネ･節電のため、日常的に取り組んでいることは、「不要な照明を消す」(86.8%)が最も多く、次いで「テレビは必要なとき以外は消す」(63.5%)、「すだれやよしずなどで日差しを和らげる」(49.2%)、「エアコン設定温度を夏季は 28℃、冬季は 20℃にする」(44.9%)、「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」(40.9%)となっています。

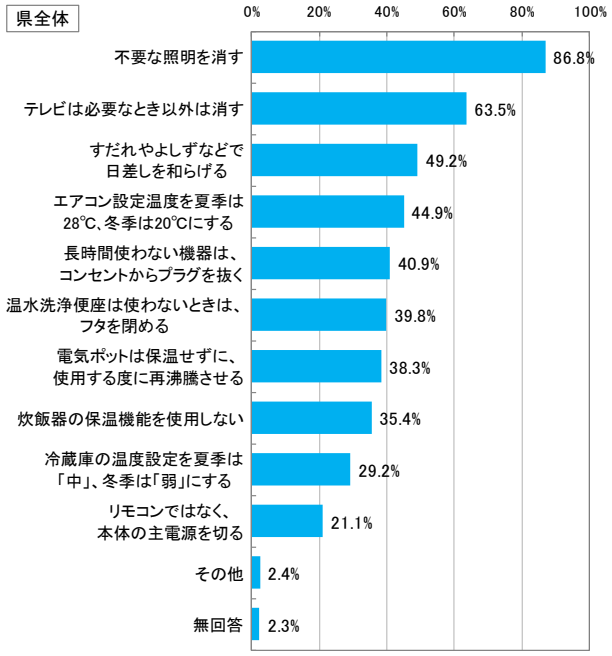
■県全体についての上位5項目を性別にみると、5項目ともに『女性』の方が『男性』よりも多くなっています。

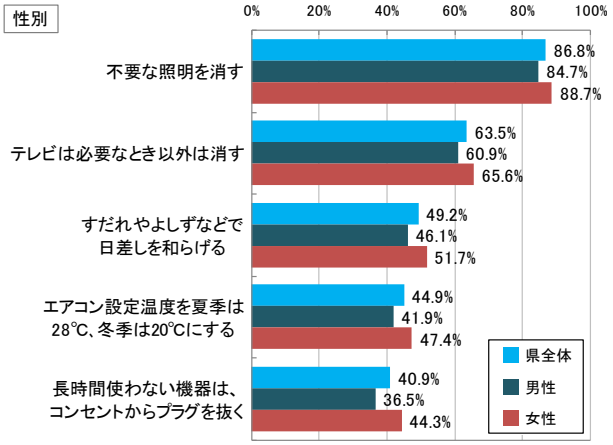
■「不要な照明を消す」と答えた人は、年齢別では『60 歳代』が最も多く、次いで『40 歳代』となっています。

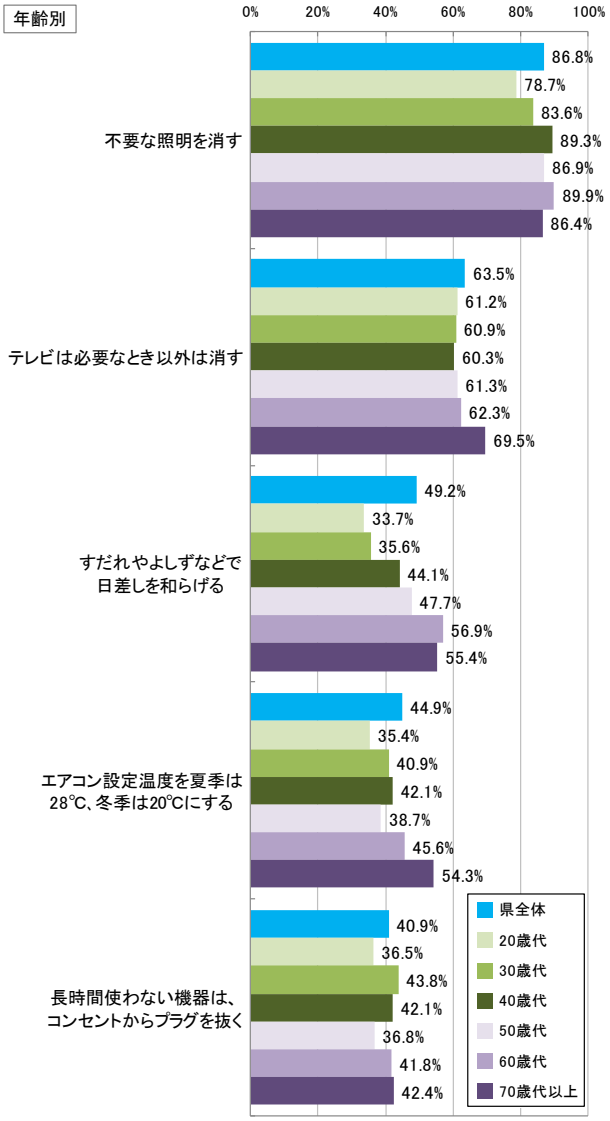
■「テレビは必要なとき以外は消す」、「エアコン設定温度を夏季は 28℃、冬季は 20℃にする」と答えた人は、年齢別では『70 歳代以上』が最も多くなっています。

■「すだれやよしずなどで日差しを和らげる」と答えた人は、年齢別では『60 歳代』が最も多くなっています。

■「長時間使わない機器は、コンセントからプラグを抜く」と答えた人は、年齢別では『30 歳代』が最も多くなっています。







4. 回答者に関すること

（１）奈良での居住理由（問 50　２つ以内で複数回答　県全体についての「その他」を除く上位５項目を掲載）

■奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(35.4％)が最も多く、次いで「結婚したから」(24.1％)、「家を継ぐため」(22.2％)、「自然が豊かなどの面で住環境がよいから」(19.6％)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(8.7％)となっています。

■平成 26 年度と比較すると、「家を継ぐため」(22.2％)と答えた人は、4.0 ポイント増加しています。

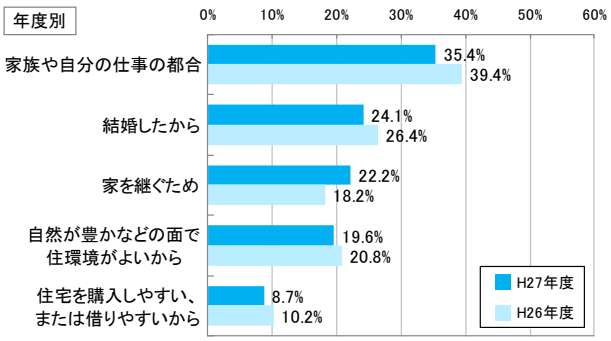
■「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域6(南西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

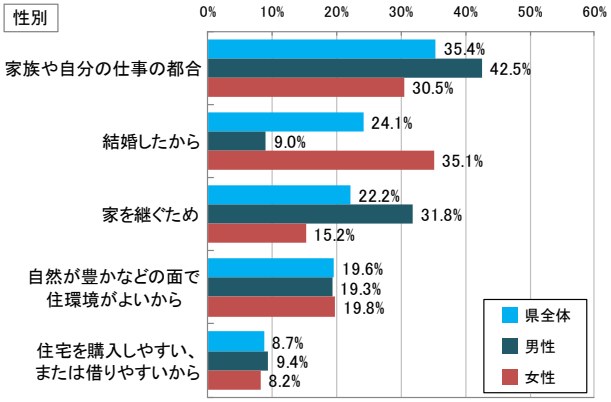
■「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

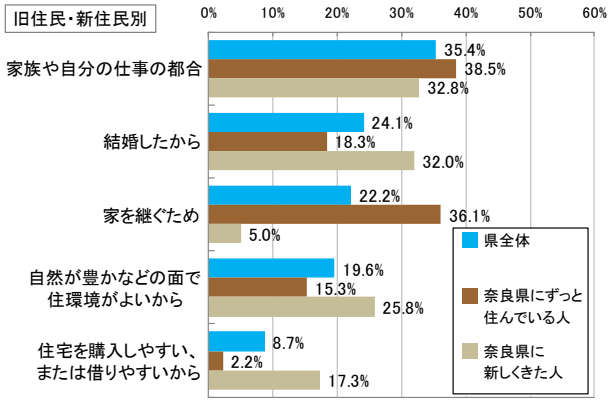
■「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域4(東部)』が最も多く、次いで『地域6(南西部)』、『地域5(南東部)』となっています。性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』、奈良での就労別では『奈良県内で働いている人』が多くなっています。

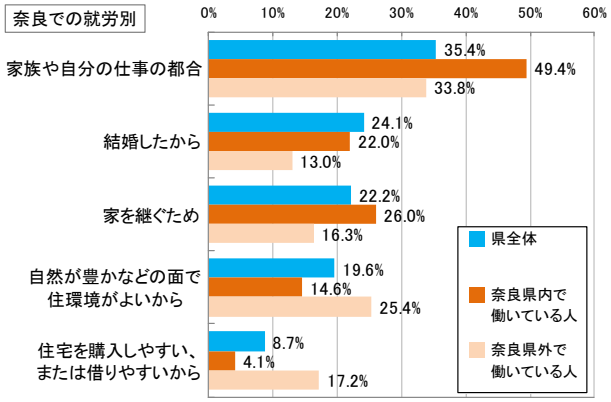
■「自然が豊かなどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。

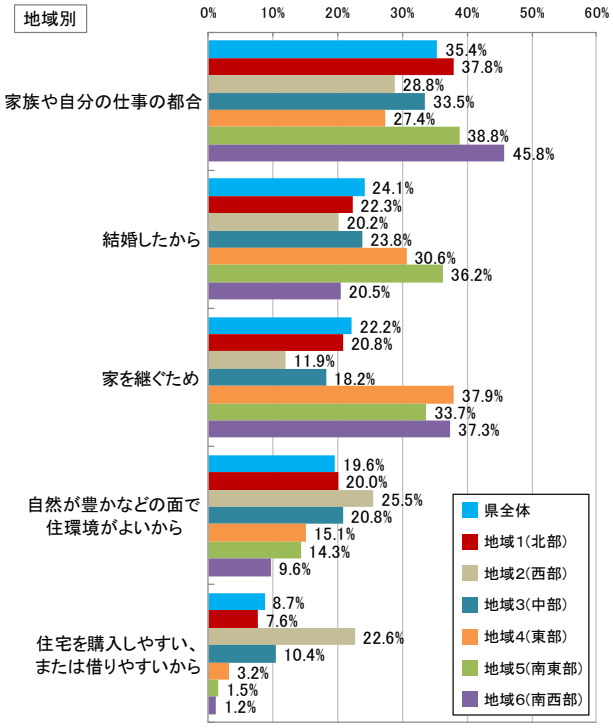
■「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』、奈良での就労別では『奈良県外で働いている人』が多くなっています。











平成２７年度
県民アンケート調査
報告書
＜概要版＞

平成 27 年 11 月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501　　奈良市登大路町 30 番地
電話　　0742-27-8439